

# 第 1 章 市民意識調査

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

男女共同参画や女性活躍の推進について、市民の意識を把握し、今後の施策や事業の見直しのための基礎資料として活用する。

### (2) 調査実施概要

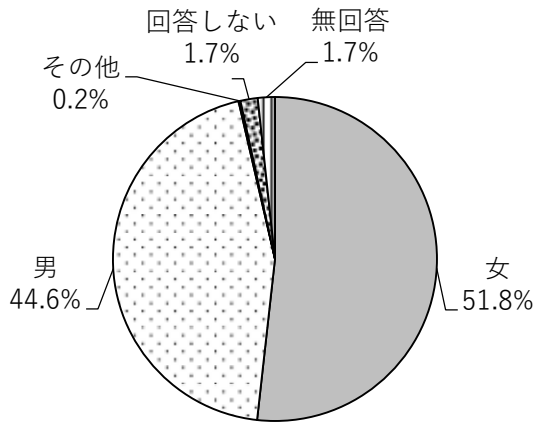
- ア 調査対象 住民基本台帳から無作為抽出した浜松市内に住む満 18 歳以上の市民 2,500 人
- イ 調査方法 質問紙郵送法（調査票回答またはインターネット回答）
- ウ 調査期間 令和 5 年 9 月 20 日～令和 5 年 10 月 15 日
- エ 有効回答数 930 件（有効回答率 37.2%）
- ・調査票郵送回答数 628 件（全回答数のうち 67.5%）
  - ・インターネット回答数 302 件（全回答数のうち 32.5%）

## 2. 報告書内のデータ記述について

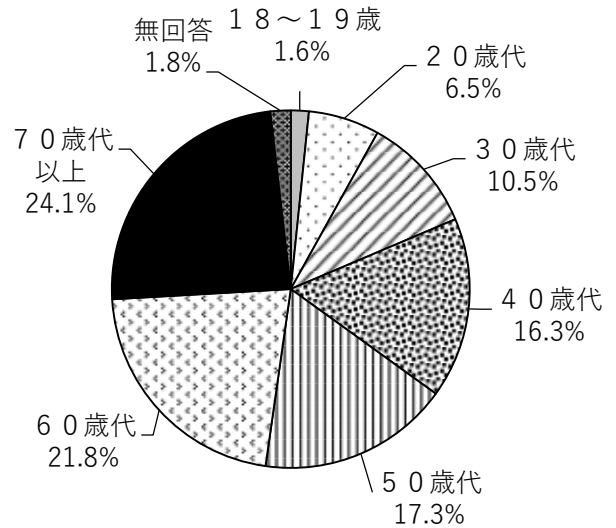
- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が 100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「n」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。
- (5) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (6) 「H28 前回調査」とは、「平成 28 年度 浜松市の男女共同参画に関する市民意識・事業所実態調査」（浜松市）のことである。
- (7) 「R4 国調査」とは、「令和 4 年度 男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）のことである。

### 3. 回答者の属性

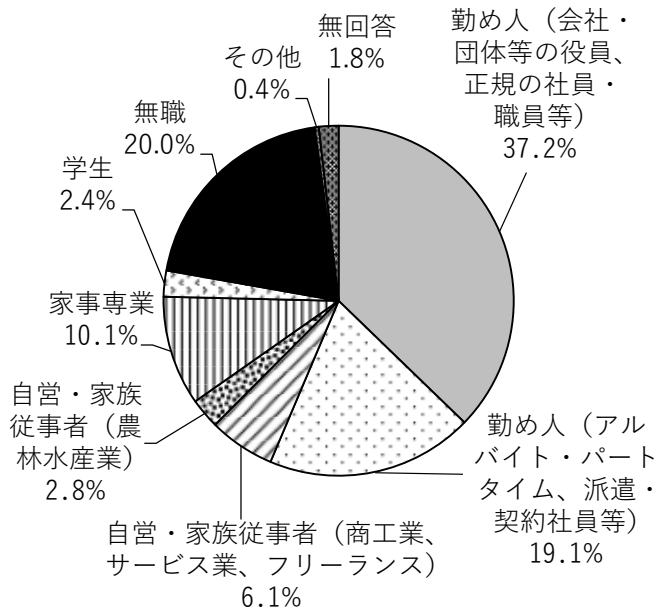
(1) 性別 (n=930)



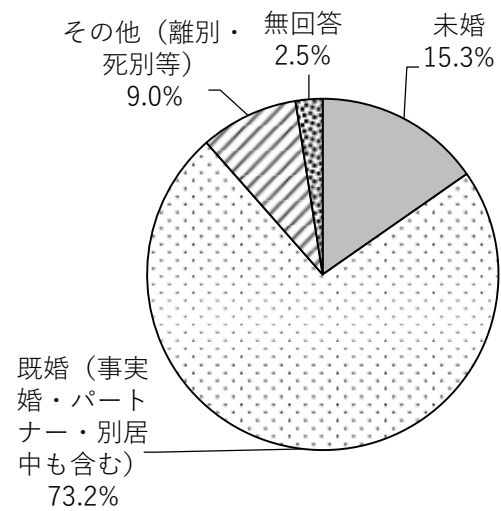
(2) 年齢 (n=930)



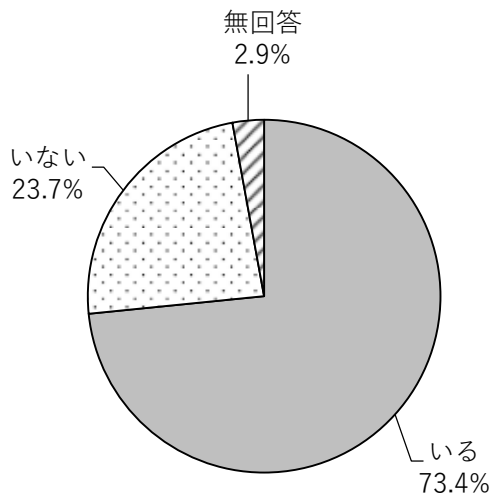
(3) 職業 (n=930)



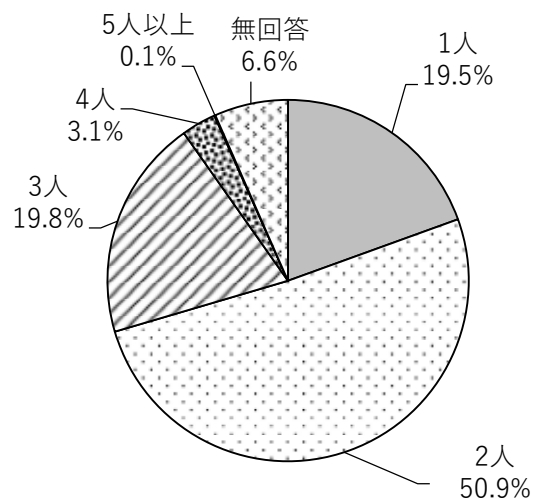
(4) 結婚の有無 (n=930)



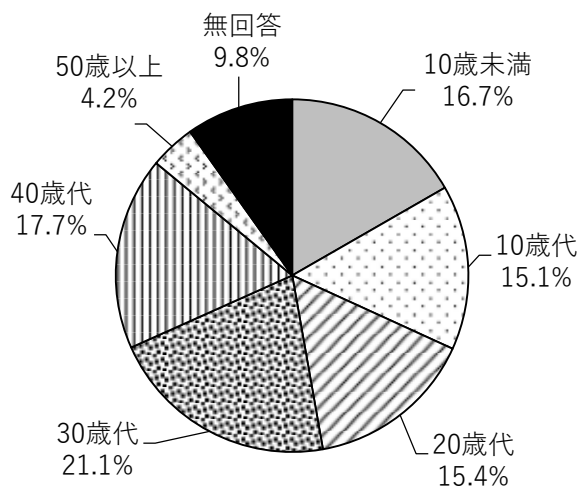
(5) 子供の有無 (n=930)



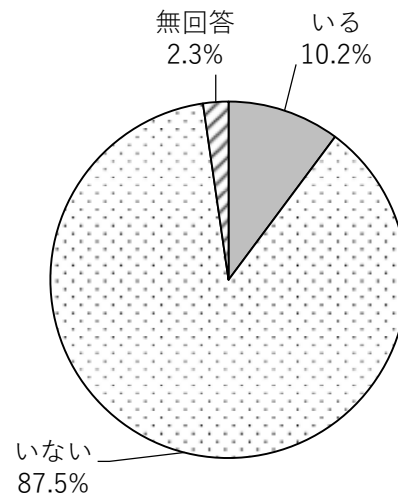
(6) 子供の人数 (n=683)



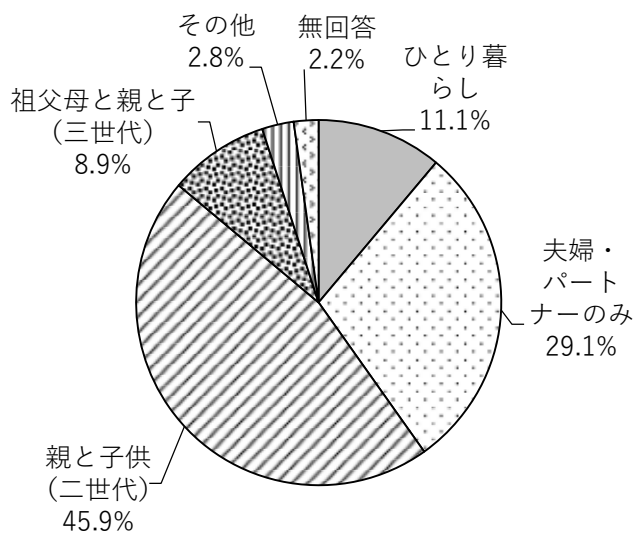
(7) 一番下の子供の年齢 (n=683)



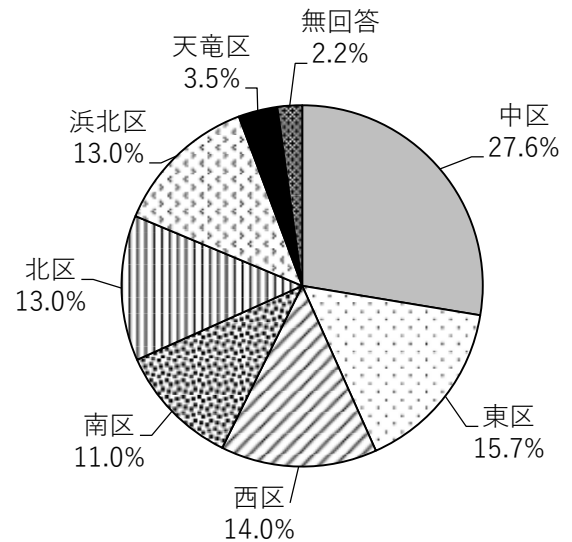
(8) 日常的に介護をしている方がいるか (n=930)



(9) 家族構成 (n=930)



(10) 居住区 (n=930)



#### 4. 調査結果

##### ◆男女共同参画意識と性別役割分担について

問1 あなたは、次の分野で男女が平等だと思いますか。(それぞれ1つに○)

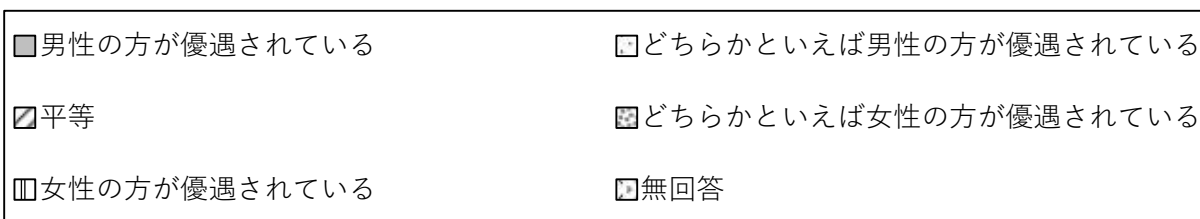
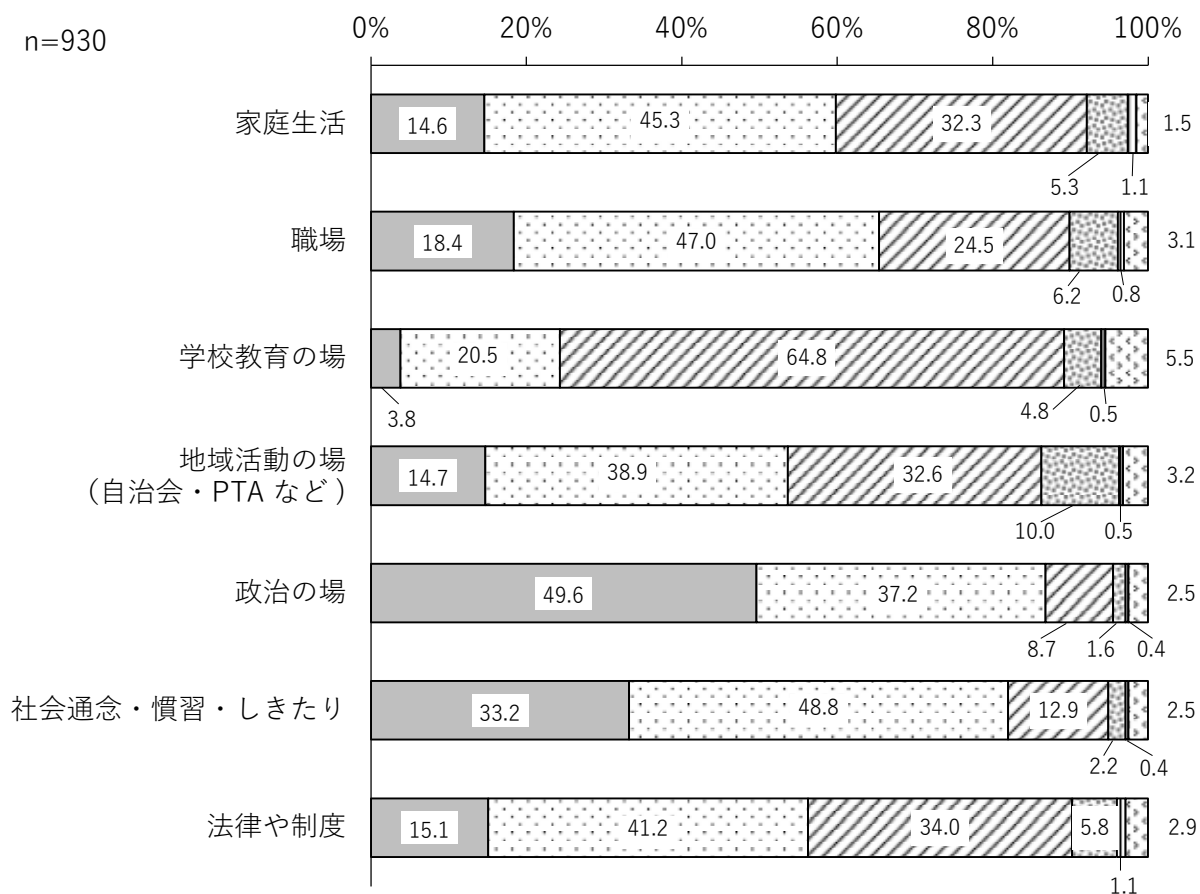
学校教育の場は6割以上が「平等」と回答するも、他の分野では『男性優遇』が過半数を占める。

全ての分野で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が、『女性優遇』（「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）を上回った。

『男性優遇』の割合が最も高かったのは、政治の場の86.8%であり、次いで、「社会通念・慣習・しきたり」が82.0%だった。

「平等」の割合が最も高かったのは、「学校教育の場」の64.8%であり、次いで、「法律や制度」が34.0%、「地域活動の場」が32.6%、「家庭生活」が32.3%だった。

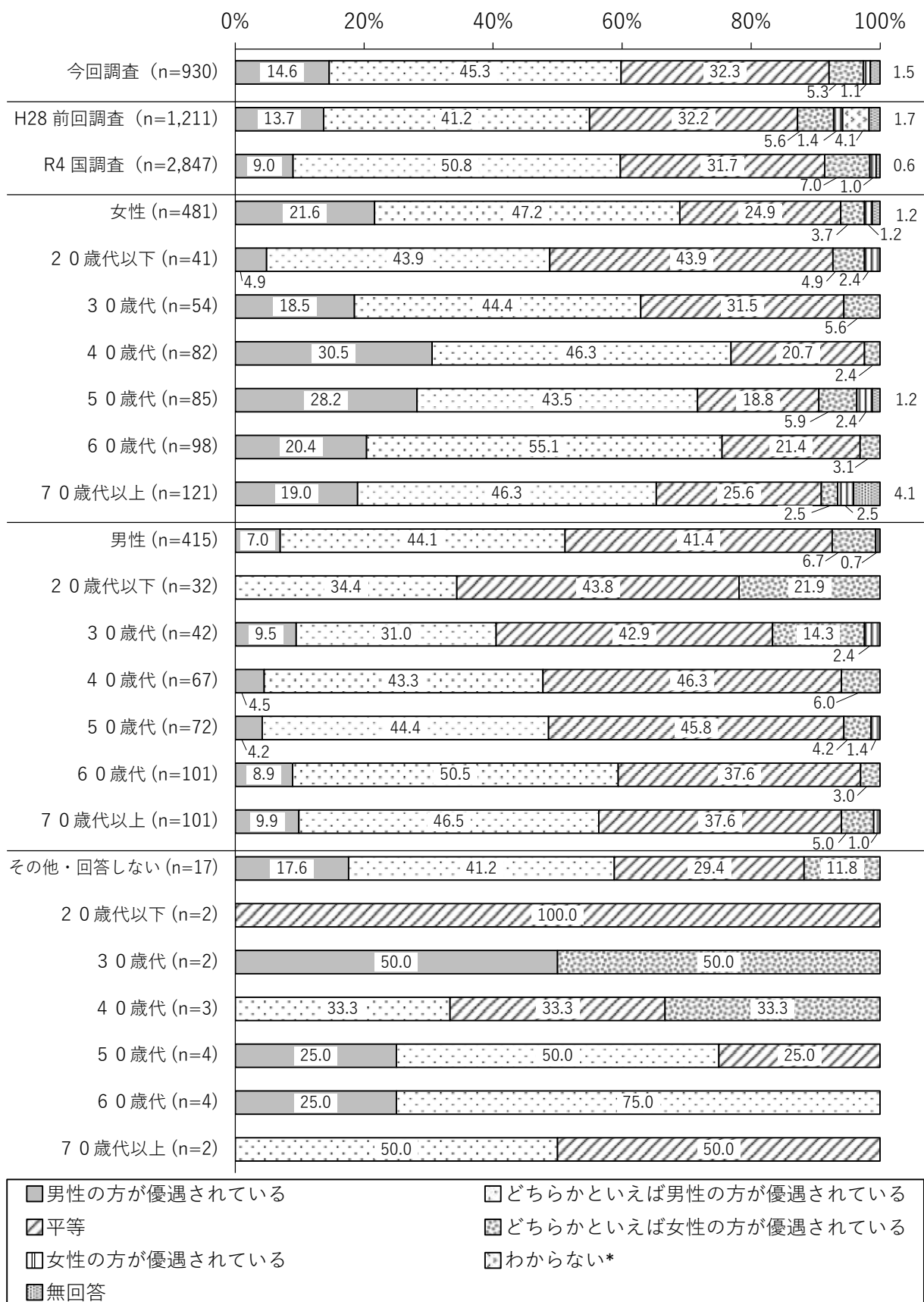
「学校教育の場」では男女平等の意識が比較的高いが、他の分野においては男女平等の意識が低い結果となった。





## ① 家庭生活

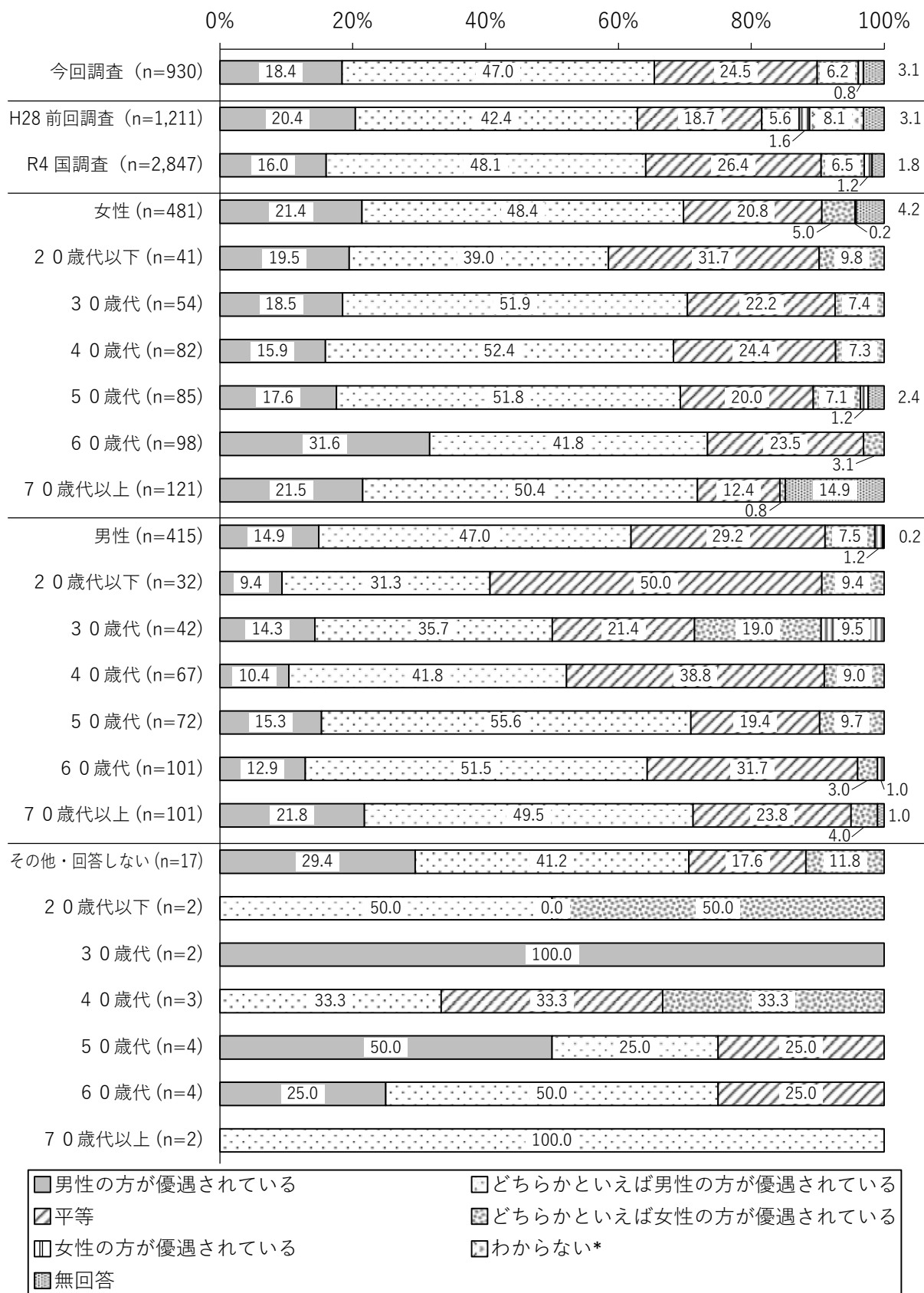
前回調査と比較すると、『男性優遇』が5.0ポイント上昇した。「平等」と『女性優遇』は前回とほぼ変わらなかった。性別で見ると、『男性優遇』は、女性68.8%に対して男性51.1%であり、「平等」は女性24.9%に対して男性41.4%と大きな差がみられた。また、年齢別で見ると、全体的に年齢が上がると『男性優遇』の割合が高くなる傾向がみられた。



\* 「わからない」の回答はH28 前回調査のみ

## ② 職場

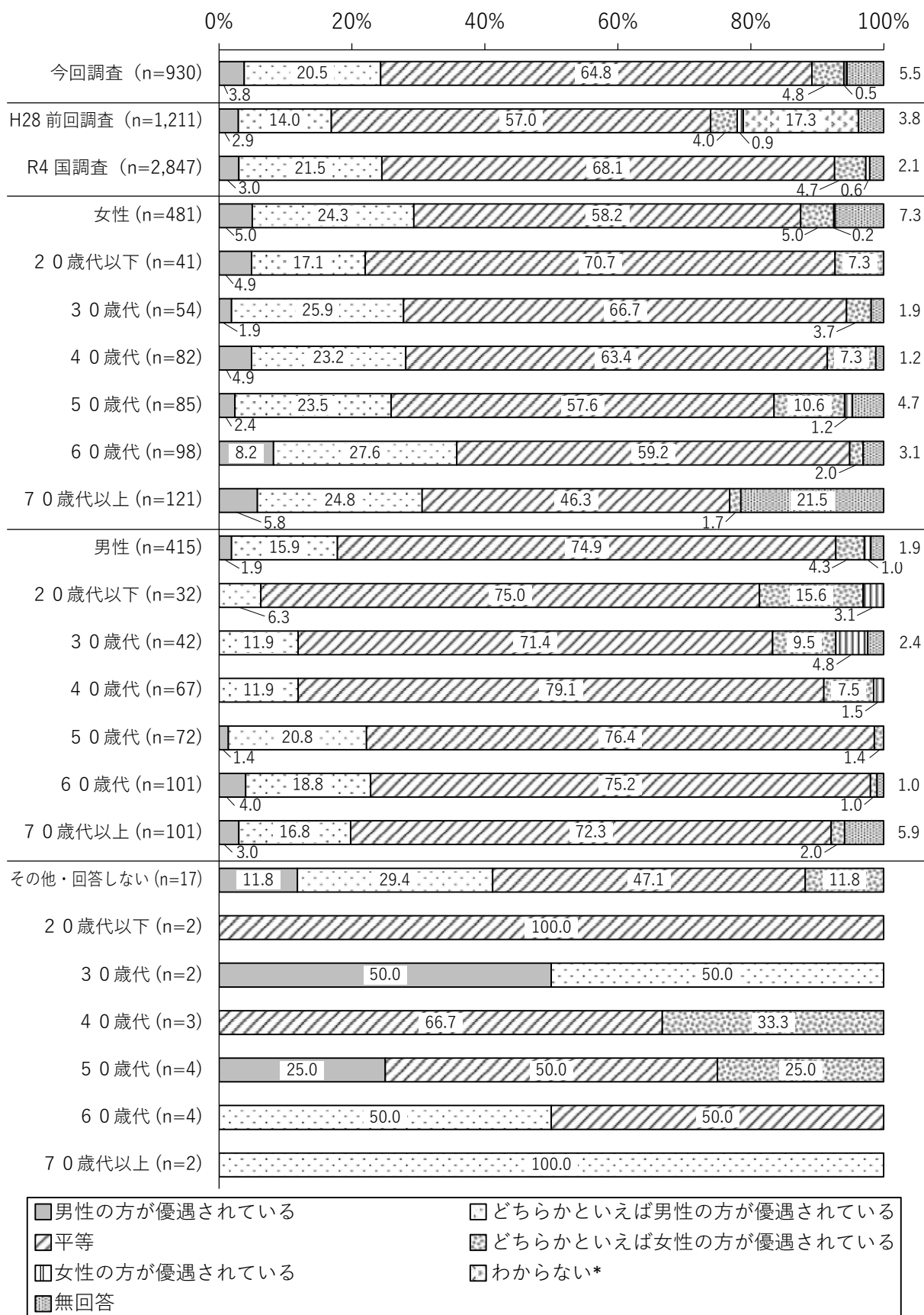
前回調査と比較すると、『男性優遇』が2.6ポイント、「平等」は5.8ポイント上昇した。『女性優遇』は前回とほぼ変わらなかった。性別で見ると、『男性優遇』は女性69.8%に対して男性61.9%であり、「平等」は女性20.8%に対して男性29.2%だった。年齢別で見ると、女性では全ての年代で『男性優遇』の回答が過半数を占めた。男性では『男性優遇』が、年齢が上がるとともに高くなる傾向がみられた。



\* 「わからない」の回答はH28 前回調査のみ

### ③ 学校教育の場

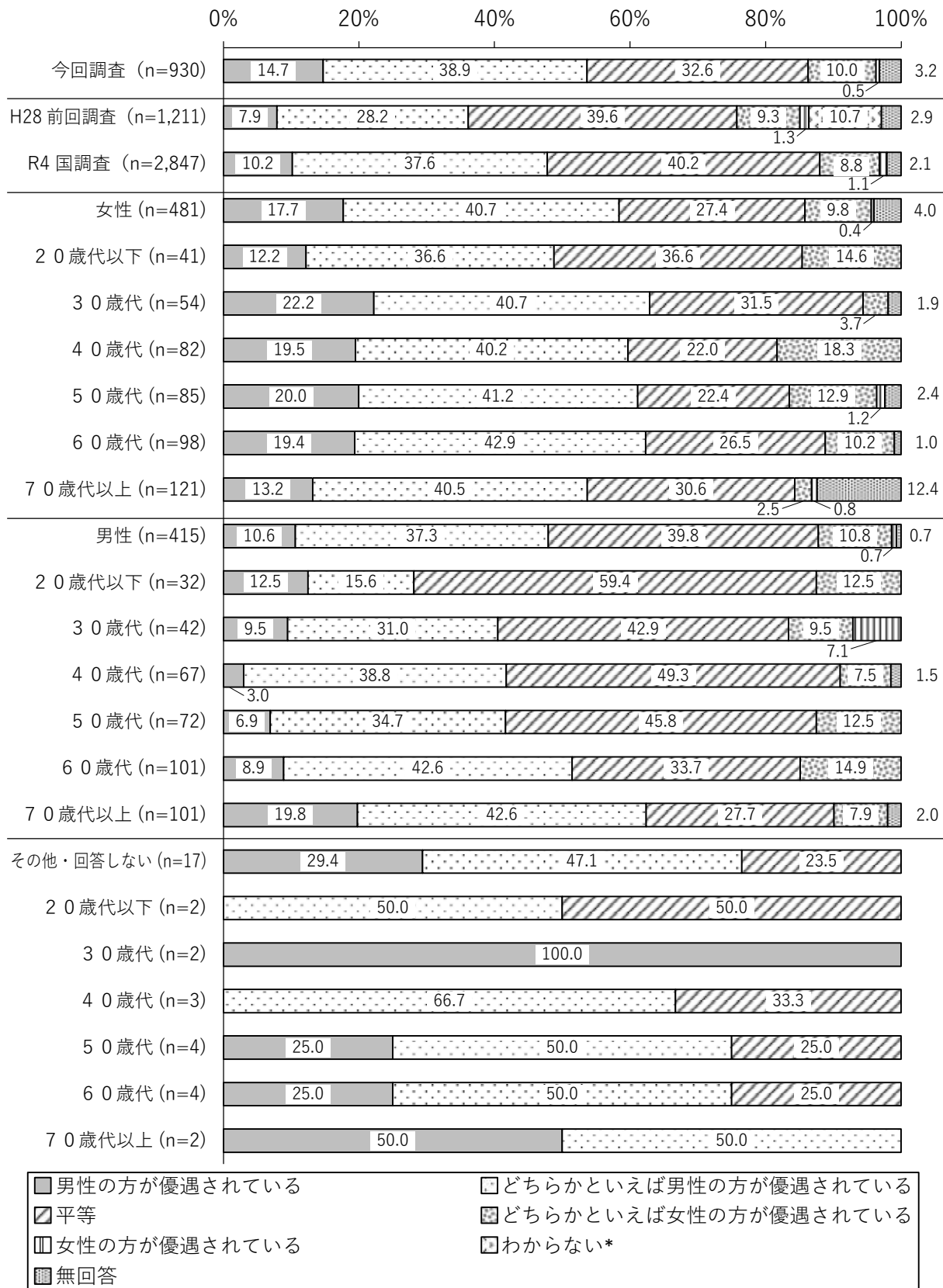
前回調査と比較すると、「平等」が7.8ポイント上昇した。性別でみると、女性、男性、その他・回答しないとも「平等」が最も高かった。『男性優遇』は、女性29.3%に対して男性17.8%だった。年齢別でみると、「平等」は、女性では20歳代以下で70.7%と最も高く、男性では全ての年代で7割を超えた。



\* 「わからない」の回答はH28 前回調査のみ

#### ④ 地域活動の場（自治会・PTA など）

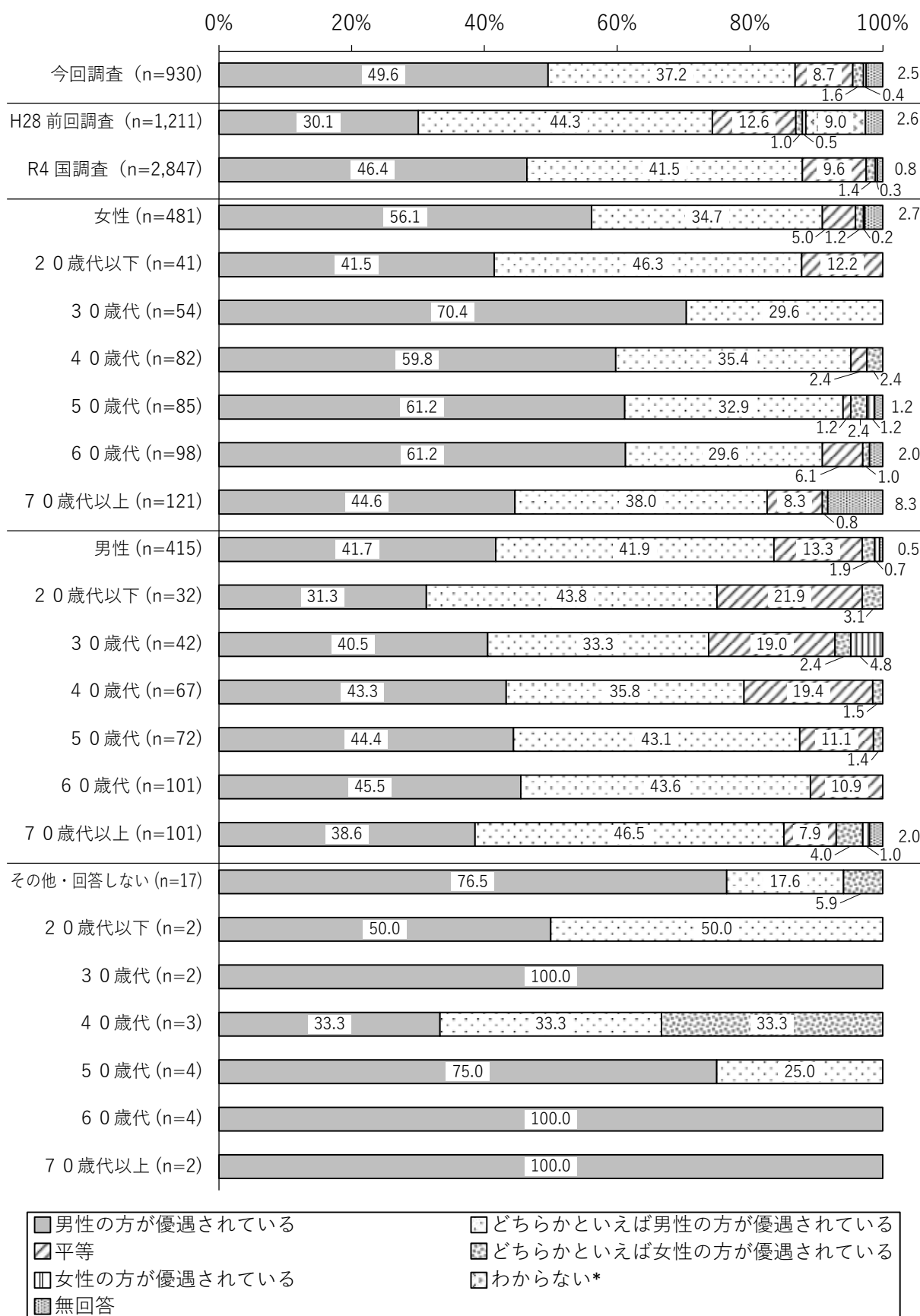
前回調査と比較すると、『男性優遇』は17.5ポイント上昇し、「平等」は7.0ポイント低下した。『女性優遇』は前回とほぼ変わらなかった。性別で見ると、『男性優遇』は女性58.4%に対して男性47.9%であり、「平等」は女性27.4%に対して男性39.8%と大きな差がみられた。年齢別で見ると、『男性優遇』は、20歳代以下で女性48.8%、男性28.1%と最も低く、年齢が上がると高くなる傾向がみられた。



\* 「わからない」の回答はH28 前回調査のみ

## ⑤ 政治の場

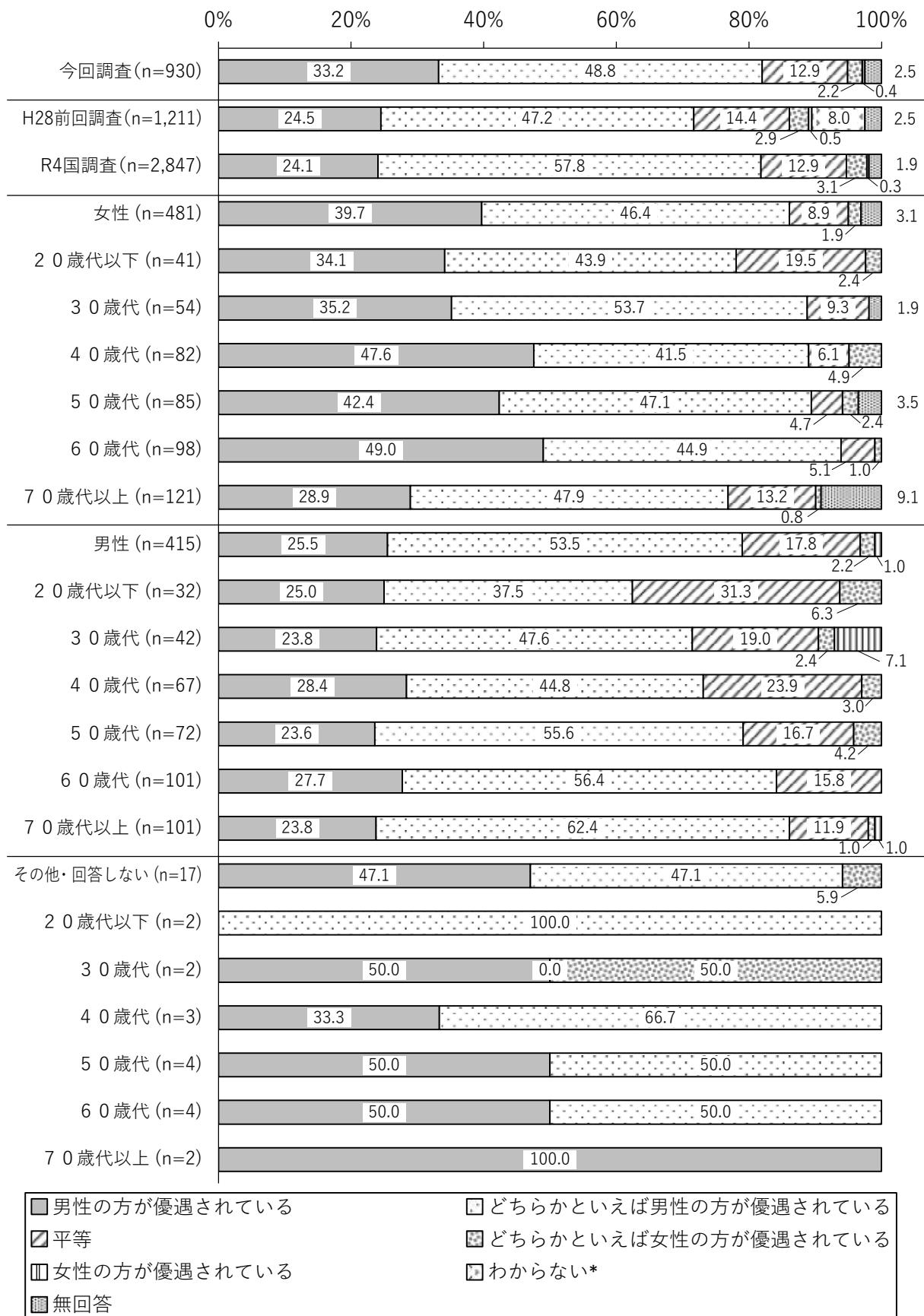
前回調査と比較すると、『男性優遇』が12.4ポイント上昇し、「平等」は3.9ポイント低下した。『女性優遇』は前回とほぼ変わらなかった。性別で見ると、女性、男性、その他・回答しないとも『男性優遇』が8割以上を占めた。年齢別で見ると、『男性優遇』は、女性では30歳代で100%と最も高く、一方、男性では30歳代で73.8%と最も低く、同じ年代の男女間で差がみられた。



\* 「わからない」の回答はH28 前回調査のみ

## ⑥ 社会通念・慣習・しきたり

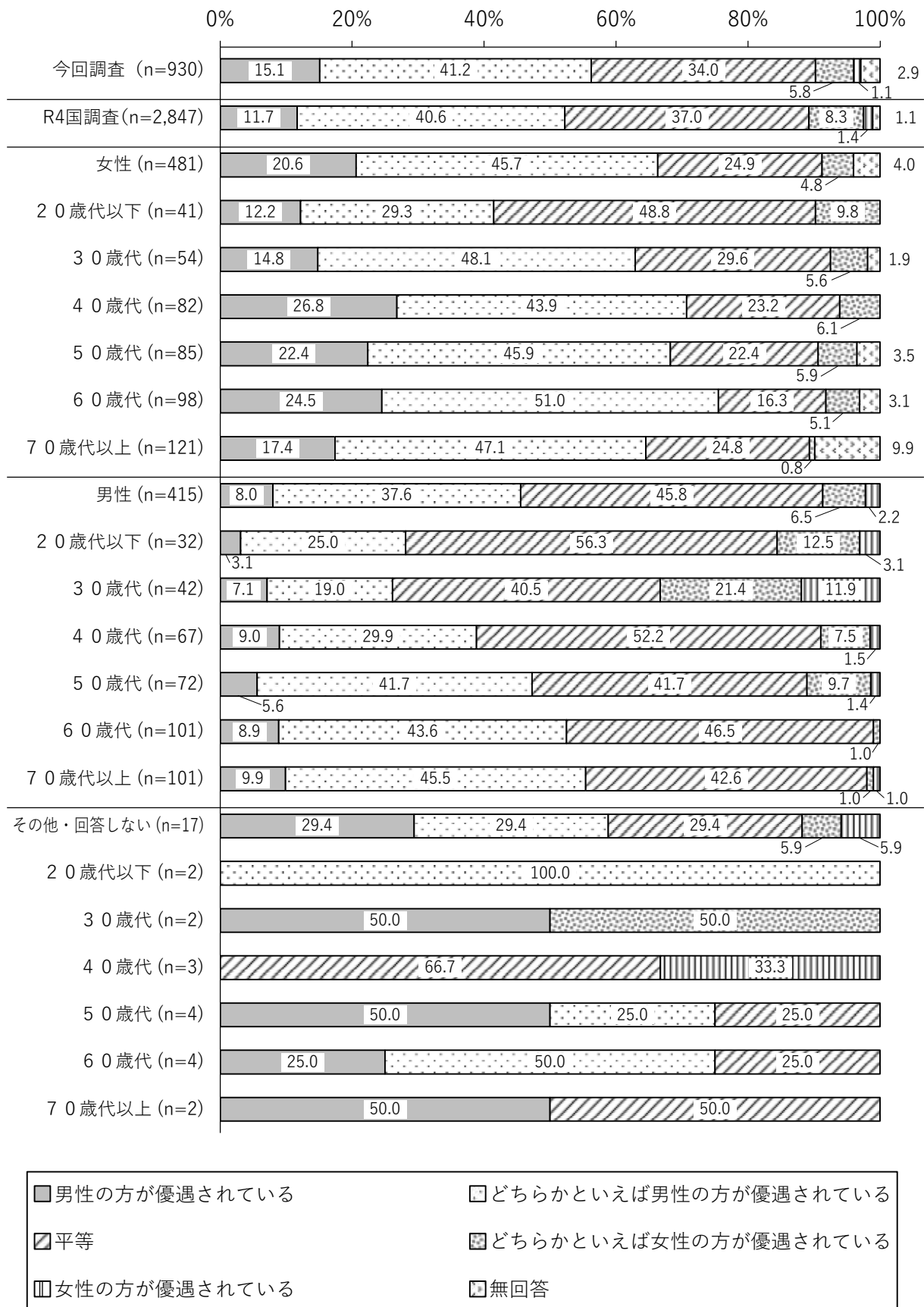
前回調査と比較すると、『男性優遇』が10.3ポイント上昇した。「平等」と『女性優遇』は前回とほぼ変わらなかった。性別でみると、『男性優遇』は、女性86.1%、男性79.0%だった。年齢別でみると、『男性優遇』は、女性では60歳代で93.9%と最も高く、男性では年齢が上がると高くなる傾向がみられた。



\* 「わからない」の回答はH28 前回調査のみ

## ⑦ 法律や制度

性別でみると、『男性優遇』は女性 66.3%に対して男性 45.6%であり、「平等」は女性 24.9%に対して男性 45.8%と大きな差がみられた。年齢別でみると、「平等」は、女性では20歳代以下が48.8%と最も高く、同じく男性でも20歳代以下で56.3%と最も高く、いずれも年齢が上がると低下する傾向がみられた。



\*本設問はH28 前回調査なし

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方について、あなたはどのように考えますか。(1つに○)

『反対』が『賛成』を大きく上回る。

「どちらかといえば反対」が35.9%で最も高かった。次いで「どちらかといえば賛成」(32.5%)、「反対」(25.6%)、「賛成」(4.0%)の順に高かった。

「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』と、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた『反対』を比較すると、『反対』(61.5%)が『賛成』(36.5%)を25.0ポイント上回った。

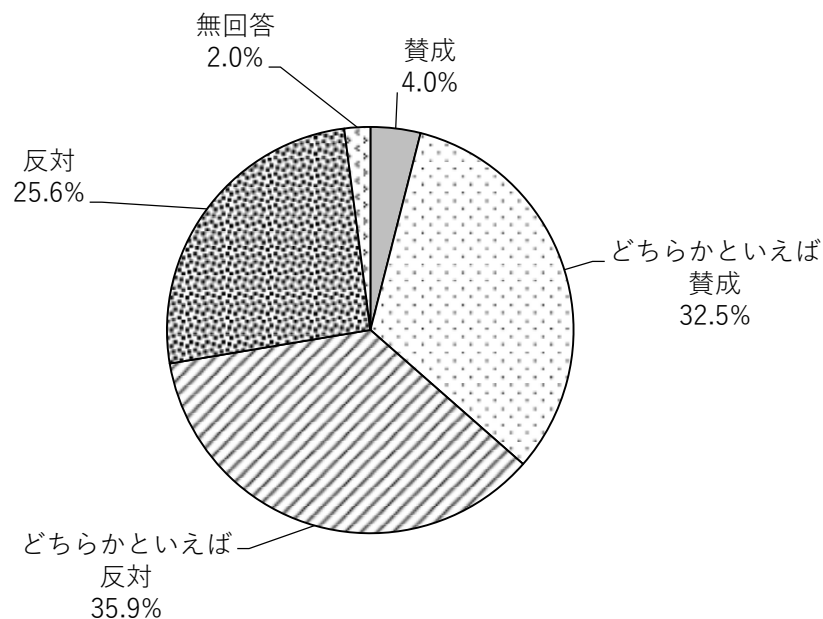
前回調査と比較すると、『賛成』が13.0ポイント低下し、『反対』が20.2ポイント大幅に増加した。「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方に『反対』する意見が『賛成』を大きく上回った。

性別でみると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方について、女性が『賛成』32.3%、『反対』66.5%であるのに対して、男性は『賛成』42.4%、『反対』56.6%であり、女性の方が男性よりも『反対』の意識が高い結果となった。女性、男性、その他・回答しないとも『反対』が『賛成』を上回り、『反対』意識の高まりがうかがえる。

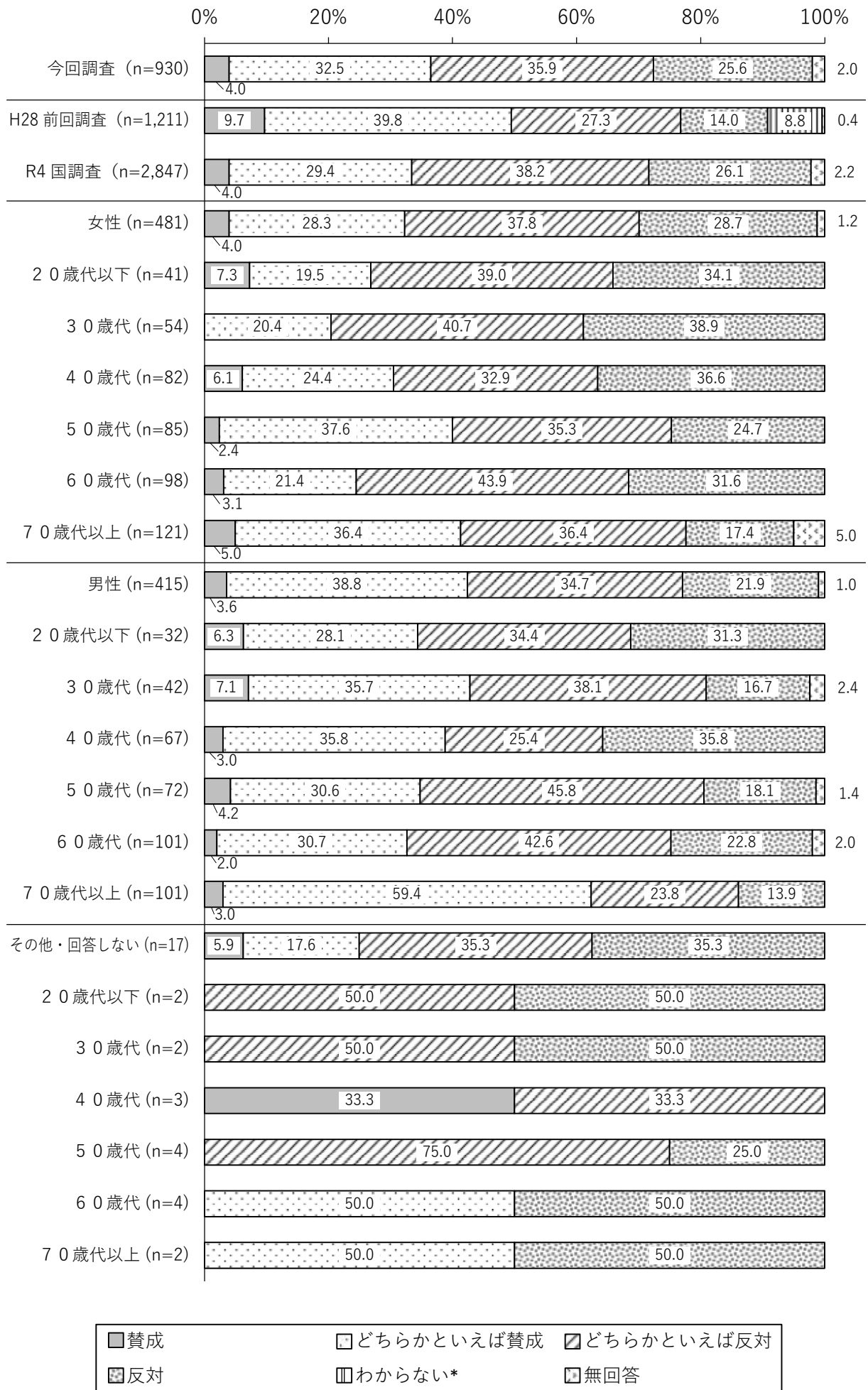
年齢別でみると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方について、『賛成』は、男女ともに70歳代以上が最も高かった(女性41.4%・男性62.4%)。また、『賛成』は、女性の30歳代で20.4%と最も低いのに対し、同じく30歳代の男性では42.8%と大きな差がみられた。『反対』は、女性では30歳代が79.6%と最も高く、男性では20歳代以下が65.7%で最も高かった。

女性の社会進出が進み、「夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方に変化がみられた。

n=930







\* 「わからない」の回答はH28 前回調査のみ

問3 あなたが望ましいと考える家庭における役割分担に最も近いものはどれですか。(1つに○)

約8割が「夫も妻も働き、両方で家事・育児・介護等をする」ことを希望している。

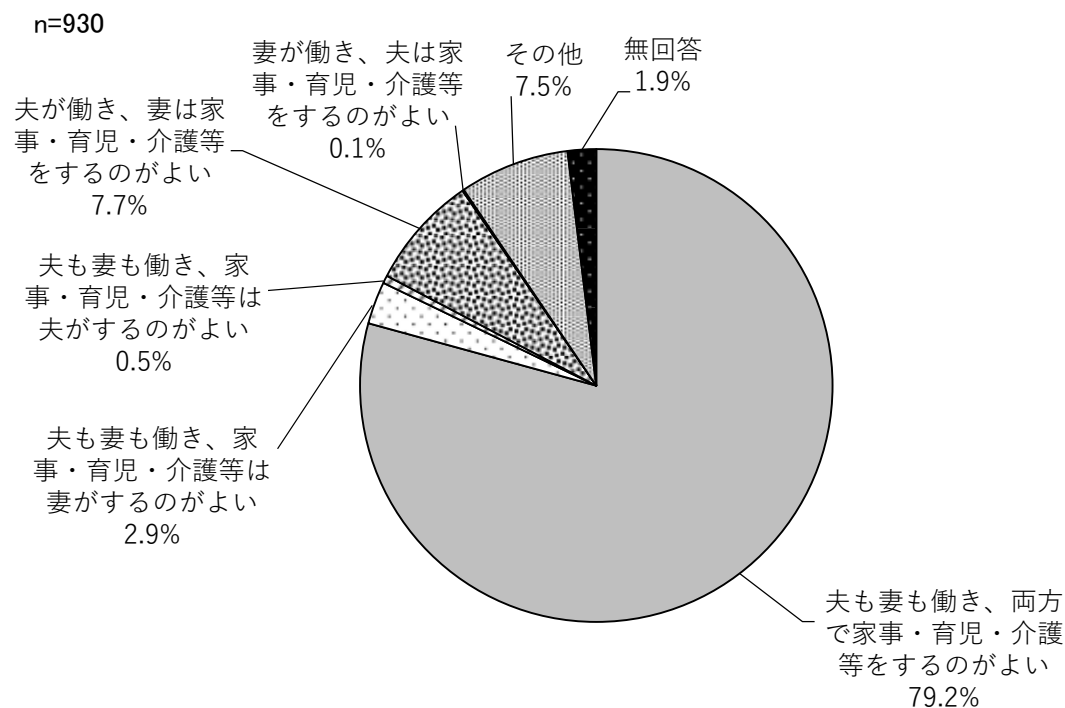
「夫も妻も働き、両方で家事・育児・介護等をするのがよい」が79.2%と多数を占めた。次いで「夫が働き、妻は家事・育児・介護等をするのがよい」が7.7%であり、その他はいずれも少数意見だった。

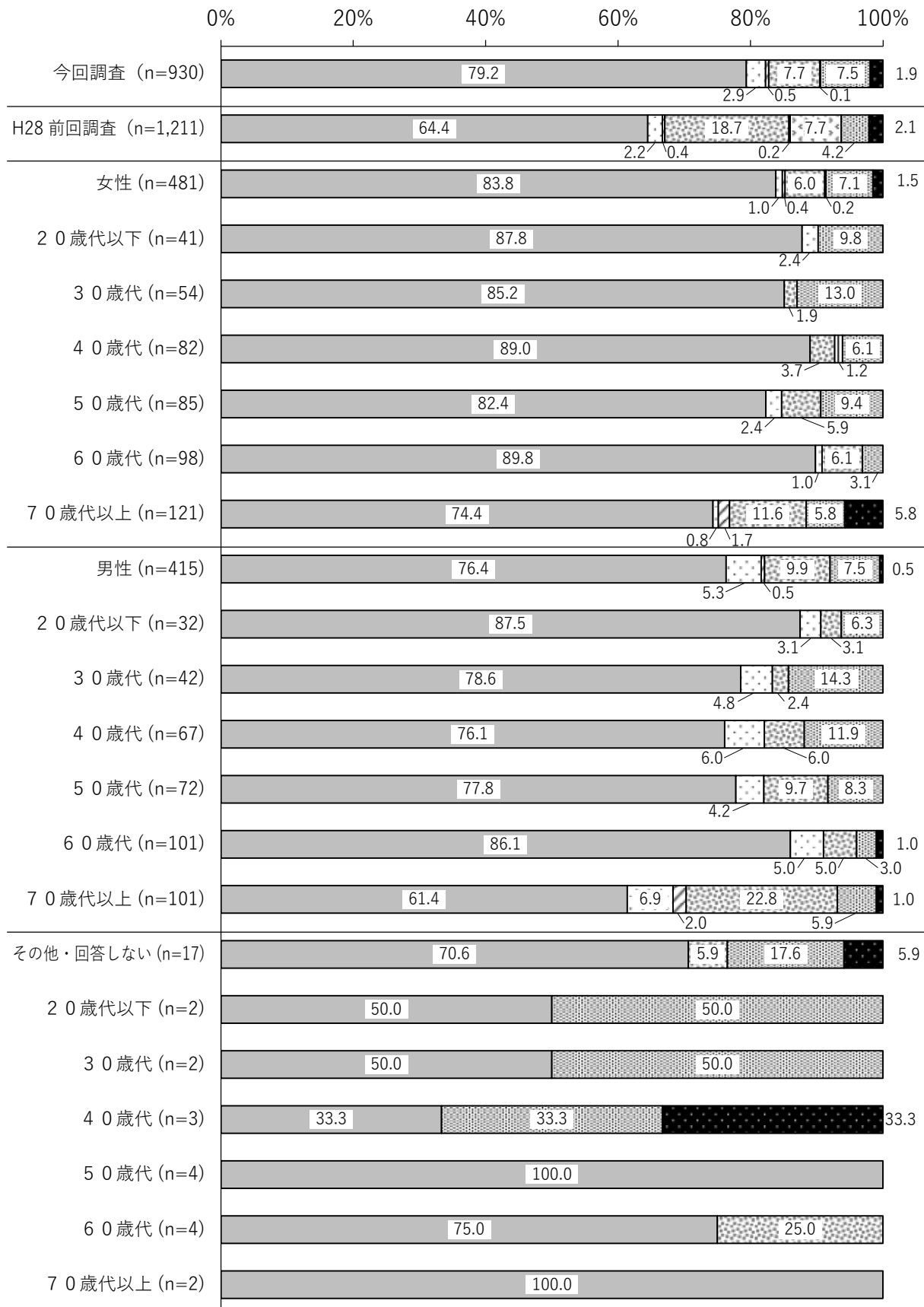
前回調査と比較すると、「夫も妻も働き、両方で家事・育児・介護等」が14.8ポイント上昇し、「夫が働き、妻は家事・育児・介護等」が11.0ポイント低下した。

性別でみると、女性、男性、その他・回答しないとも「夫も妻も働き、両方で家事・育児・介護等」が最も高かった。

年齢別でみると、「夫も妻も働き、両方で家事・育児・介護等」は、70歳代以上で若干低いものの、女性の20歳代以下～60歳代いずれも8割以上と高く、男性においても20歳代以下～60歳代いずれも7割以上と高かった。

夫も妻も平等に家事・育児・介護等を分担すべきであるという考え方が浸透してきていることがうかがえる。





- 夫も妻も働き、両方で家事等をする
- ▣ 夫も妻も働き、家事等は妻がする
- ▤ 夫も妻も働き、家事等は夫がする
- ▥ 夫が働き、妻は家事等をする
- ▧ 妻が働き、夫は家事等をする
- ▨ わからない\*
- ▩ その他
- 無回答

\* 「わからない」の回答はH28 前回調査のみ

問4 家庭生活の中で、次の事柄について主にどなたが行っていますか。(それぞれ1つに○)

ごみ出し、自治会等の地域活動は主に夫、その他の家事等は主に妻が行っている。

主に夫が担当している事柄で割合が高かったのは「ごみ出し」(35.4%)、「自治会等の地域活動」(32.5%)であり、主に妻が担当している割合を上回った。他の事柄はいずれも1割未満だった。

主に妻が担当している事柄で最も割合が高かったのは「食事の用意」の70.1%で、次いで「洗濯」(61.7%)、「食料品、日用品の買い物」(57.4%)、「食事の後片付け」(55.3%)、「掃除」(53.8%)と続いた。また、赤ちゃんや幼稚園・保育園、学校等の子供関連及び介護については、「該当なし」「無回答」を除くと、主に妻が担当している割合が高かった。実態として家事・育児・介護の多くを主に妻が担っていることがうかがえる。

夫と妻が同じ程度で行っている事柄で最も割合が高かったのは「掃除」の18.4%で、次に「食料品、日用品の買い物」が17.8%だった。

(%)

	主に夫	夫と妻が同じ程度	主に妻	家族で交替・分担	有償サービスの利用	自分のみ(単身者等)	該当なし	無回答
①食事の用意	2.0	6.7	70.1	6.9	0.4	9.2	3.5	1.1
②食事の後片付け	8.0	12.8	55.3	10.2	0.2	9.5	2.8	1.3
③食料品、日用品の買い物	2.7	17.8	57.4	8.2	0.3	9.1	3.2	1.2
④ごみ出し	35.4	12.2	31.1	7.5	0.2	9.5	3.0	1.2
⑤掃除	5.6	18.4	53.8	7.6	0.5	9.5	3.1	1.5
⑥洗濯	5.3	12.6	61.7	6.8	0.3	9.2	3.0	1.1
⑦赤ちゃんの食事の世話	0.4	3.5	34.2	2.5	-	1.4	50.8	7.2
⑧赤ちゃんのオムツの替え	0.2	6.9	29.5	4.2	-	1.4	50.8	7.1
⑨赤ちゃんをお風呂に入れる	8.0	11.4	17.1	4.2	-	1.3	51.1	7.0
⑩保育園・幼稚園、習い事等の送迎	1.7	6.1	31.2	4.4	0.1	1.4	48.0	7.1
⑪子供の勉強をみる	4.3	9.4	23.9	4.2	1.0	1.5	48.7	7.1
⑫学校等の行事への参加	0.5	10.8	32.9	2.9	-	1.3	44.6	7.0
⑬自治会等の地域活動	32.5	17.0	20.3	7.1	0.1	5.3	14.7	3.0
⑭高齢の親の介護	1.6	10.6	18.4	4.6	1.2	3.0	54.1	6.5

問5 あなたが、家事・育児・介護等（問4の①～⑭の項目内容）に従事する1日の平均時間はどのくらいですか。平日、休日それぞれについてご記入ください。（数字を記入）

家事・育児・介護等に従事する時間は、男性よりも女性の方が3時間以上長い。

回答者全体の平均時間は平日の3時間14分、休日の平均時間は4時間13分となり、休日の方が59分長かった。前回調査と比較すると、全体の平均時間は、平日で40分減少、休日も18分減少した。女性の平均時間は、平日で52分減少、休日も19分減少した。男性の平均時間は、平日で7分増加、休日も13分増加した。女性では減少、男性では増加の傾向がみられる。

平日の平均時間は、女性の4時間53分に対して男性は1時間24分と、女性の方が3時間29分長かった。前回調査と比較すると、男女間の差は59分縮まった。

休日の平均時間は、女性の5時間59分に対して男性は2時間19分と、女性の方が3時間40分長かった。前回調査と比較すると、男女間の差は32分縮まった。

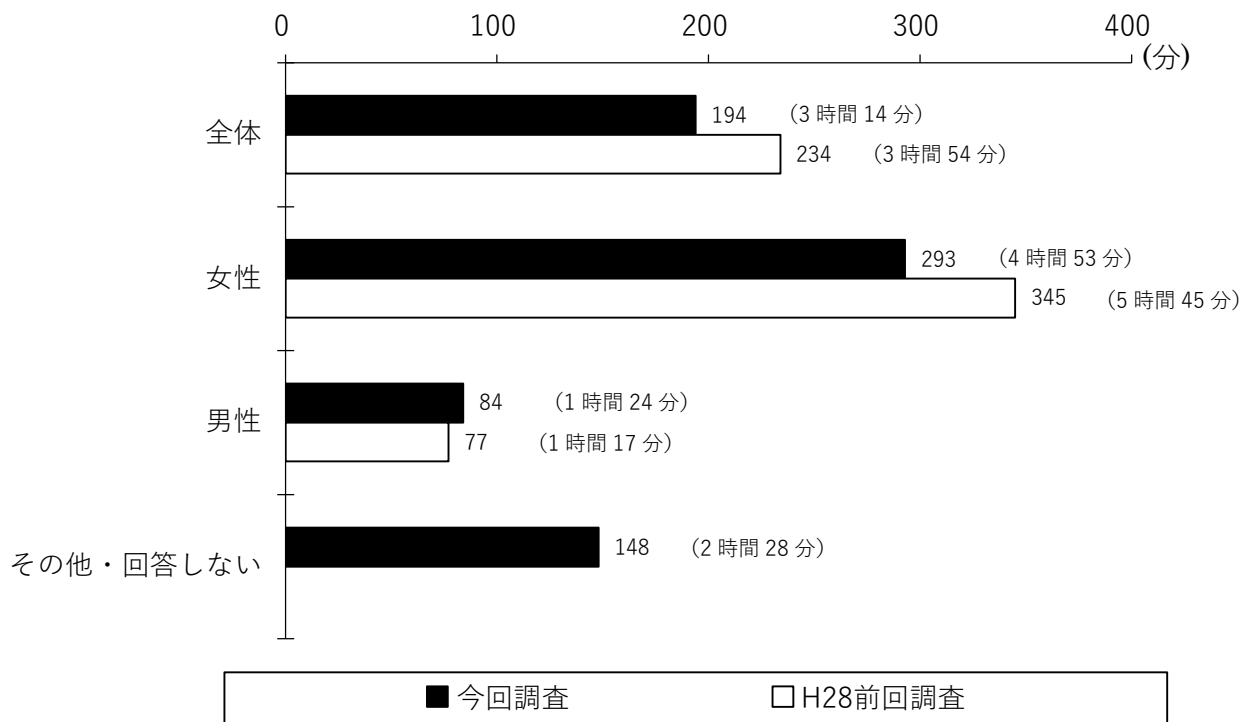
しかしながら、いまだに平日・休日とも女性の方が男性よりも3時間以上長い状況である。

**【平均時間】**

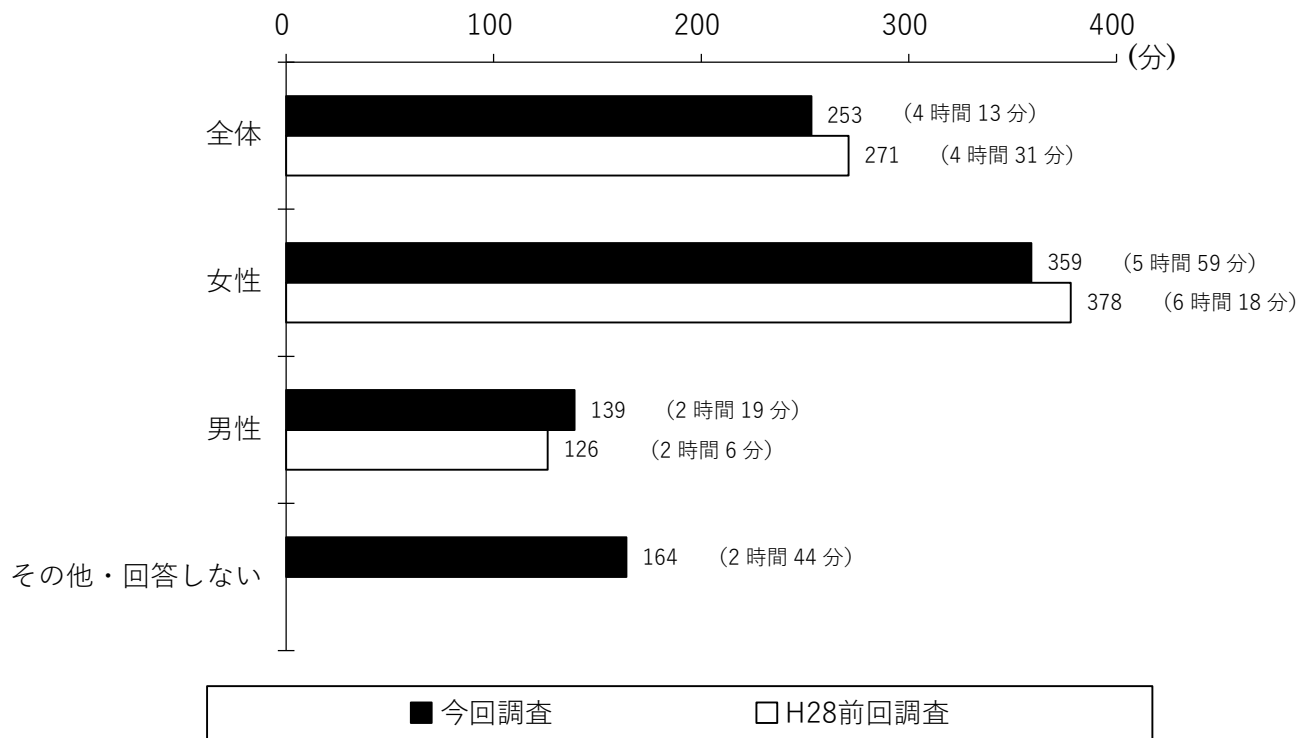
今回調査	平日平均時間	休日平均時間
全体	3時間14分	4時間13分
女性	4時間53分	5時間59分
男性	1時間24分	2時間19分
その他・回答しない	2時間28分	2時間44分

H28前回調査	平日平均時間	休日平均時間
全体	3時間54分	4時間31分
女性	5時間45分	6時間18分
男性	1時間17分	2時間06分

【平日】

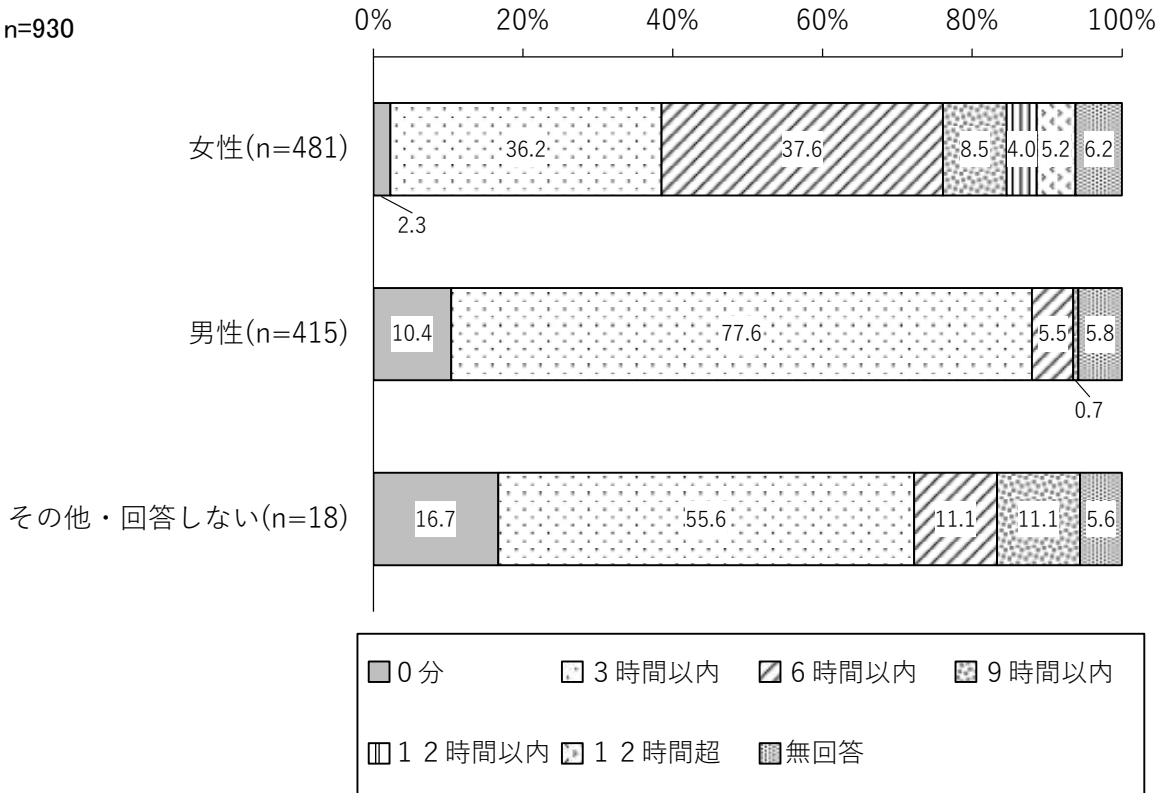


【休日】



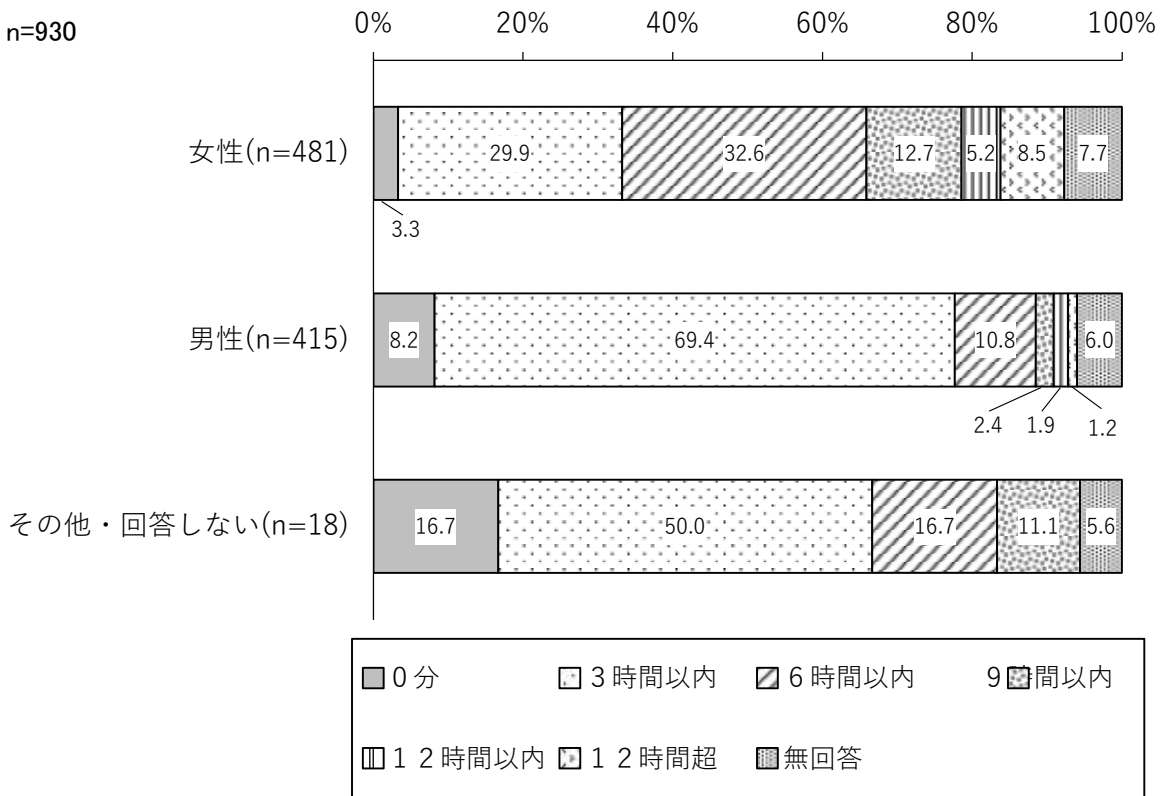
【性別（平日）】

n=930



【性別（休日）】

n=930



◆ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問6 「仕事」「家庭生活（家事・育児・介護等）」「個人の生活・地域活動（趣味・学習・ボランティア・自治会・PTA等）」の優先度について、あなたの理想に最も近いものはどれですか。（1つに○）

複数をバランスよく取り組みたいと考える人が過半数を占める。

理想の優先度は「仕事と家庭生活」が29.0%で最も高かった。「仕事と個人の生活・地域活動」（5.1%）、「仕事と家庭生活と個人の生活・地域活動」（18.4%）を合わせたワーク・ライフ・バランスを理想とする回答が52.5%と過半数を占めた。

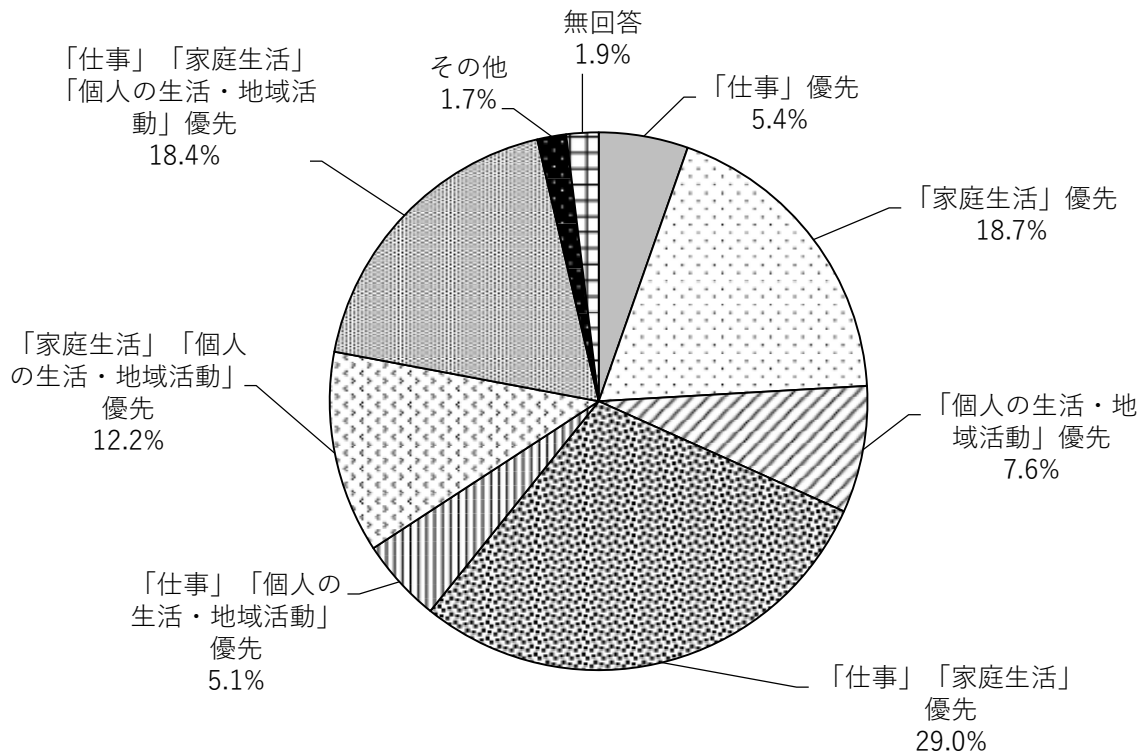
前回調査と比較すると、ほぼ傾向は変わらなかった。

性別でみると、女性では「仕事と家庭生活」が29.1%と最も高く、男性も同様に「仕事と家庭生活」が29.9%で最も高かった。「仕事」は、女性2.7%、男性8.4%と男性の方が5.7ポイント高かった。「家庭生活」は、女性19.5%、男性17.6%と女性の方が1.9ポイント高かった。

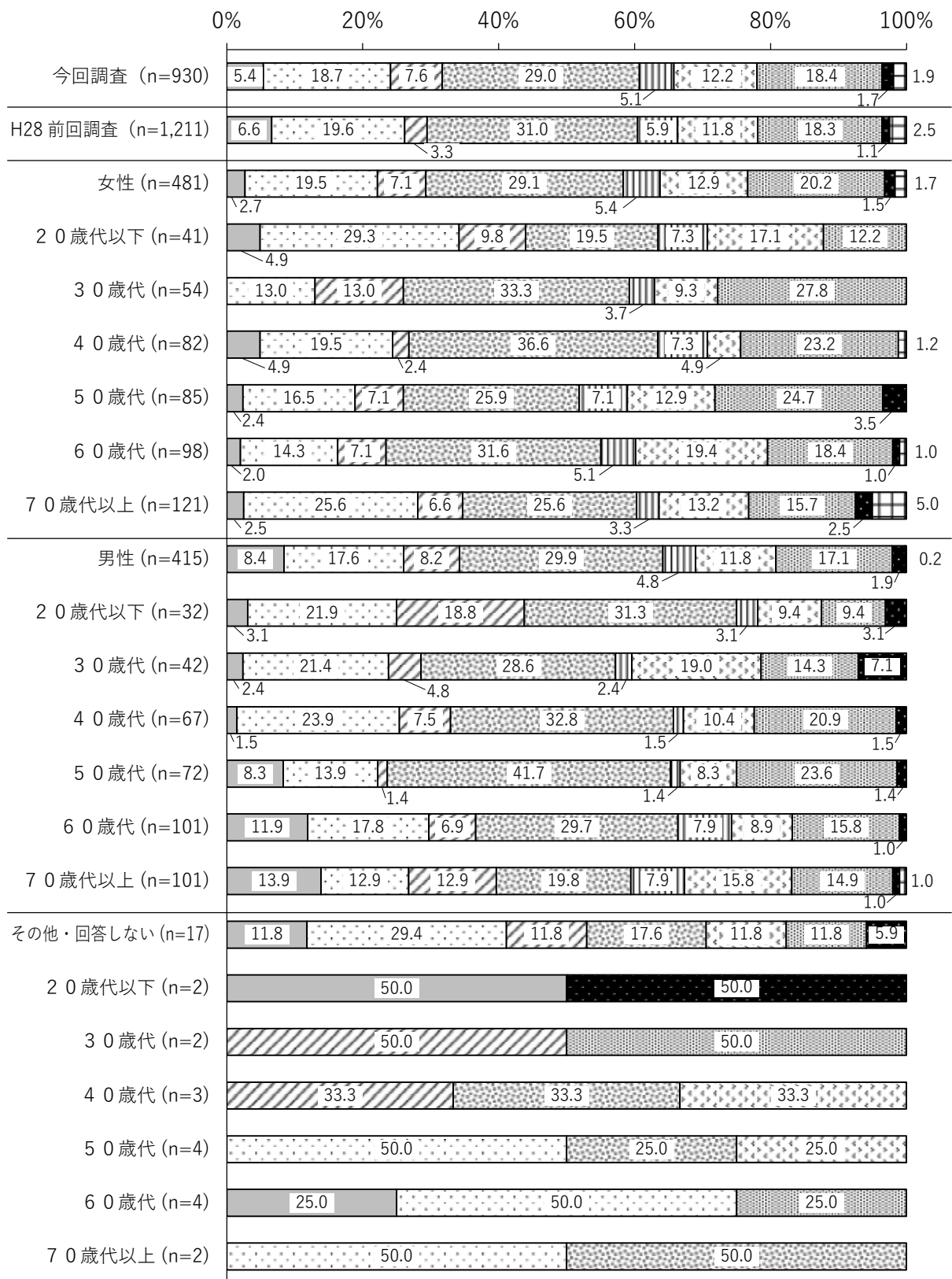
年齢別でみると、「仕事と家庭生活」は、女性が40歳代で36.6%、男性は50歳代で41.7%と最も高かった。「仕事」については、女性ではどの年代も10%未満だった。男性では40歳代までは10%未満だったが、50歳代以上は年齢が上がると高くなる傾向がみられた。

【理想】

n=930







- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- ▨ 「個人の生活・地域活動」を優先したい
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」
- ▨ 「仕事」と「個人の生活・地域活動」
- ▨ 「家庭生活」と「個人の生活・地域活動」
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活・地域活動」
- その他
- 無回答

問7 あなたの現状（現実）に最も近いものはどれですか。（1つに○）

現状（現実）では「仕事」が優先されており、理想とのギャップがみられる。

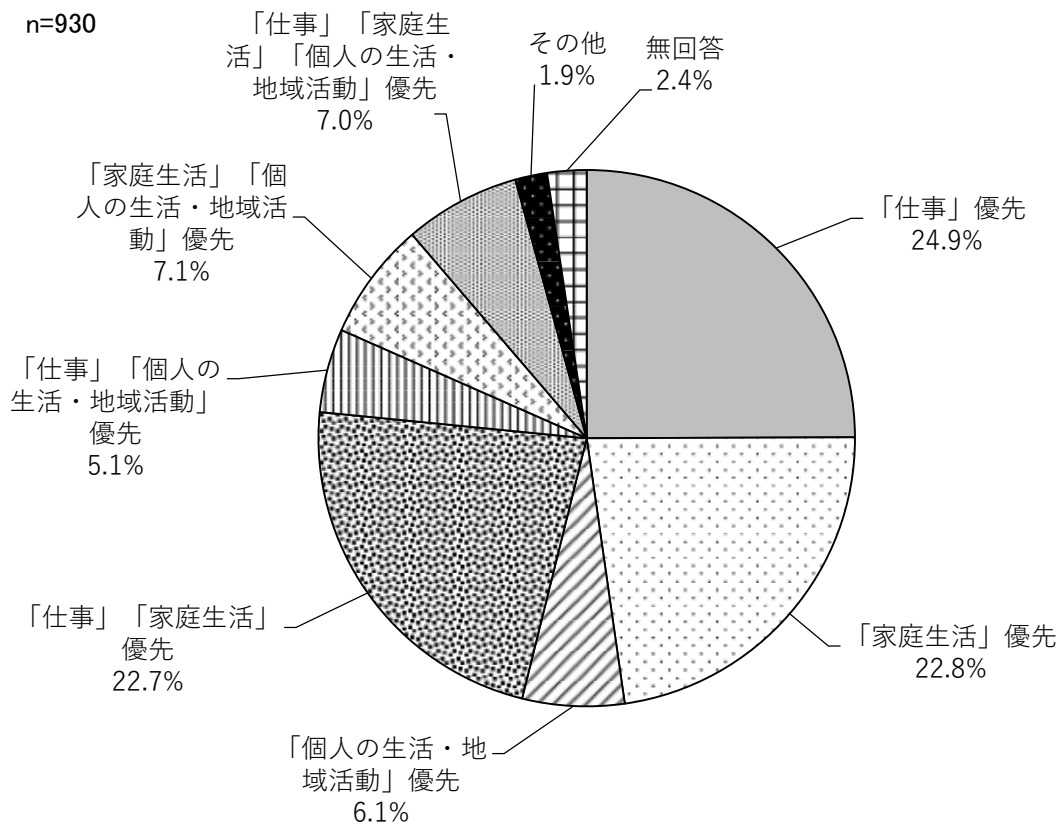
「仕事」が24.9%で最も高く、次いで「家庭生活」（22.8%）、「仕事と家庭生活」（22.7%）の順に高かった。他の項目はいずれも10%未満だった。「仕事」優先または「家庭生活」優先を合わせると47.7%と半数近く占め、ワーク・ライフ・バランスがとれているとする「仕事と家庭生活」（22.7%）と「仕事と個人の生活・地域活動」（5.1%）、「仕事と家庭生活と個人の生活・地域活動」（7.0%）を合わせた34.8%を上回った。

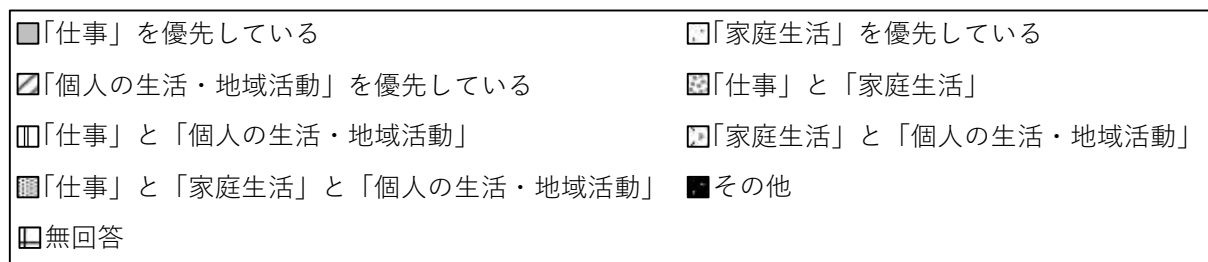
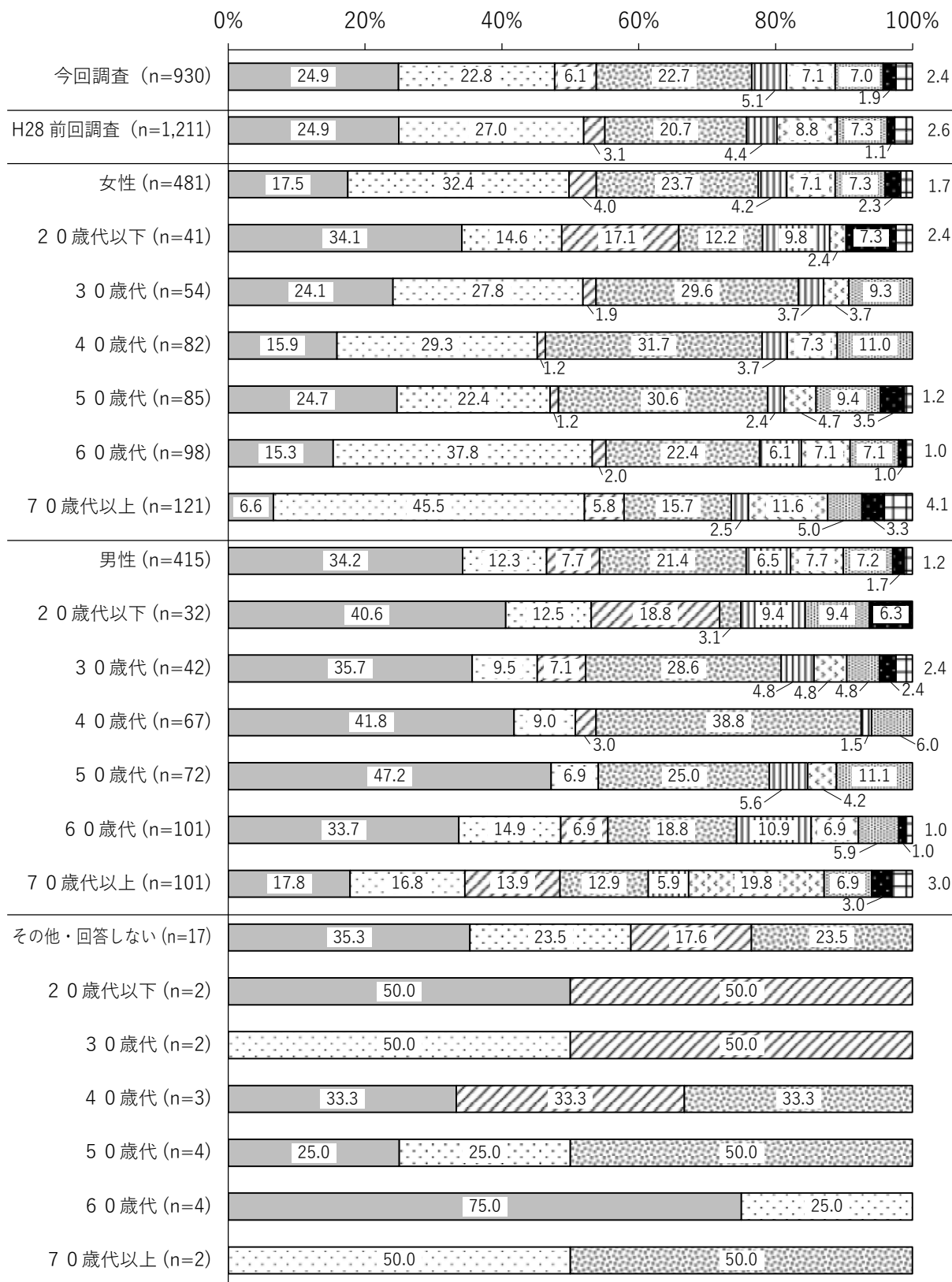
前回調査と比較すると、ほぼ傾向は変わらなかった。

性別でみると、「仕事」は女性17.5%、男性34.2%と男性の方が16.7ポイント高かった。「家庭生活」は女性32.4%、男性12.3%と女性の方が20.1ポイント高かった。「仕事と家庭生活」は女性23.7%、男性21.4%と女性の方が2.3ポイント高かった。男性は「仕事」、女性は「家庭生活」を優先していることがうかがえる。

年齢別でみると、「仕事」は、女性では20歳代以下で34.1%と最も高いが、年齢が上がると低下し、逆に「家庭生活」の割合が上昇する傾向がみられた。男性では「仕事」の割合が全体的に高く、50歳代が47.2%と最も高くなるが、定年等で退職する人が多い60歳代以上は低下する傾向がみられた。

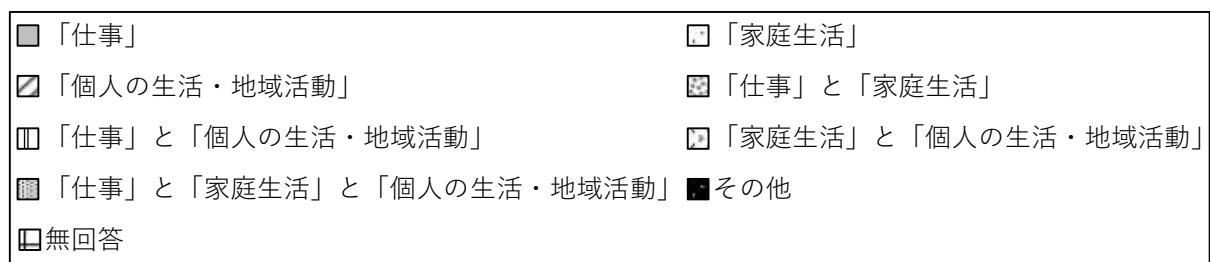
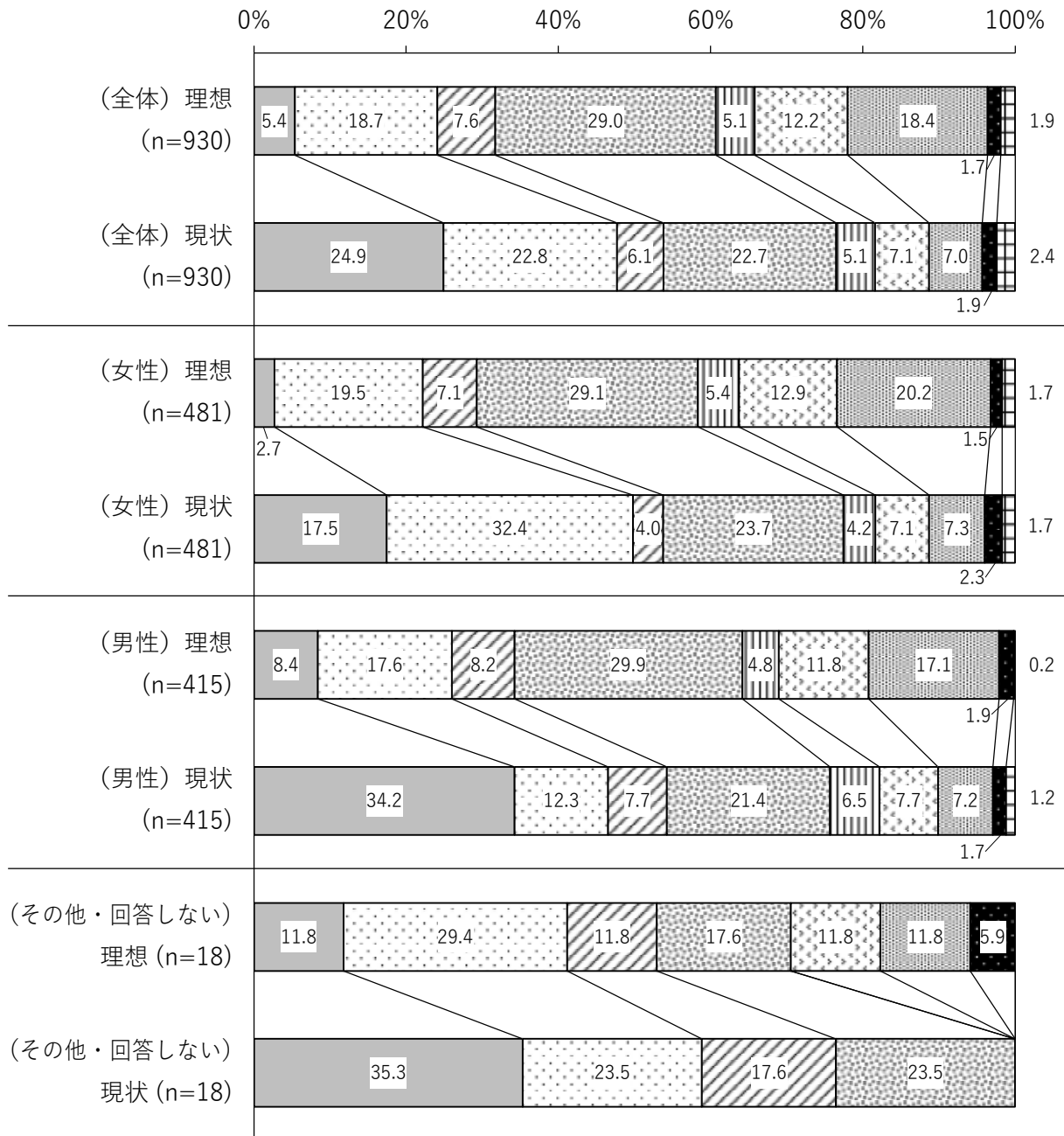
【現状（現実）】





### 【理想（問6）と現状（問7）との比較】

問6でたずねた理想と問7の現状を比較すると、「仕事と家庭生活」では、理想（29.0%）に対して現状（22.7%）の方が6.3ポイント低かった。一方「仕事」では、理想（5.4%）に対して現状（24.9%）の方が19.5ポイント高かった。性別でみると、「家庭生活」では女性の理想（19.5%）に対して現状（32.4%）の方が12.9ポイント高かった。また、女性、男性、その他・回答しないとも「仕事」における理想と現状の差が大きかった。仕事と家庭生活の両立において、理想と現状に大きなギャップがあることがうかがえる。

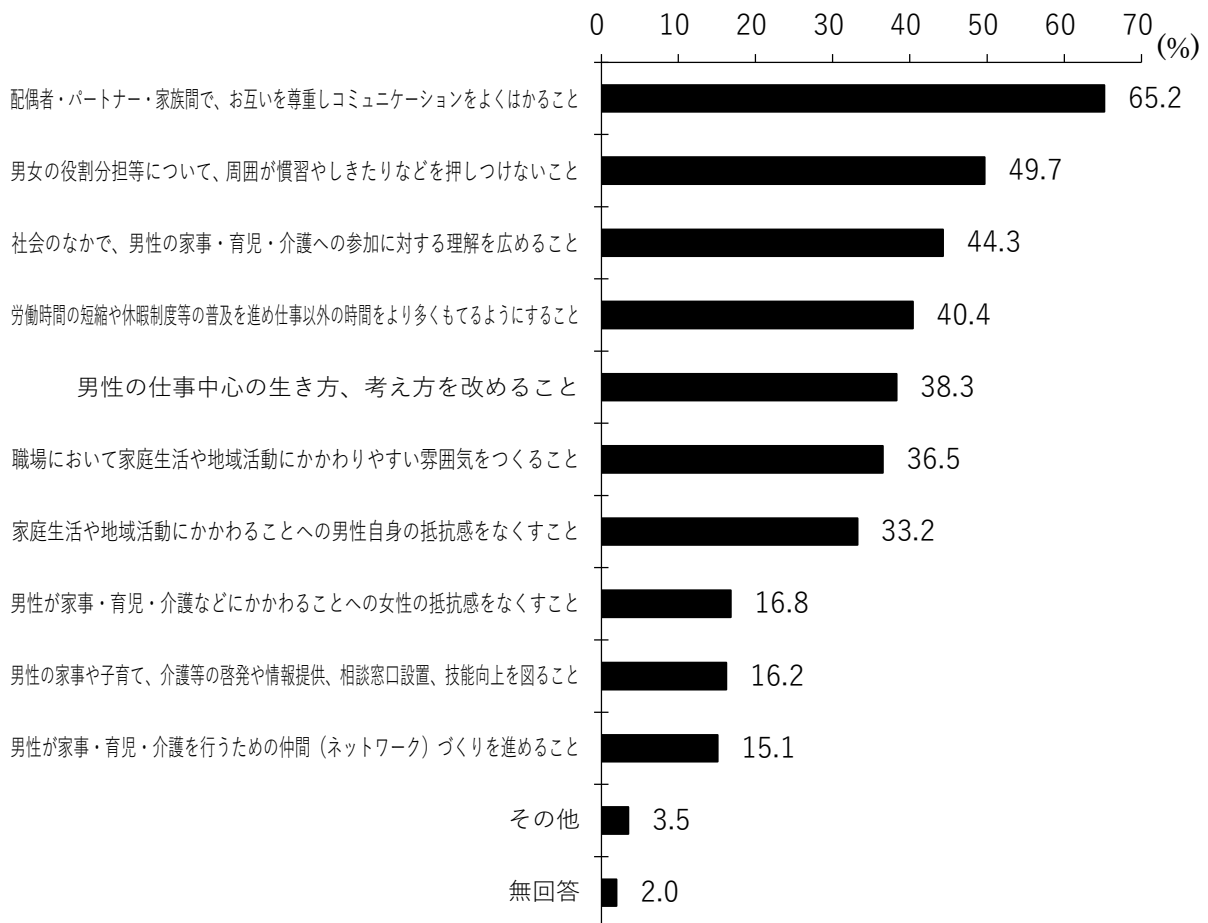


問8 あなたは、男性が女性とともに「家庭生活」や「地域活動」に積極的にたずさわっていただくためには、何が必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

家庭内におけるコミュニケーションの向上と社会における意識改革が必要である。

「配偶者・パートナー・家族間で、お互いを尊重しコミュニケーションをよくはかること」が65.2%で最も高く、次に高かった「男女の役割分担等について、周囲が慣習やしきたりなどを押しつけないこと」(49.7%)を15.5ポイント上回った。「社会のなかで、男性の家事・育児・介護への参加に対する理解を広めること」(44.3%)まで含めると、上位3位までは意識改革に関する項目が占めた。意識改革に次いで「労働時間の短縮や休暇制度等の普及を進め仕事以外の時間をより多くもてるようにすること」(40.4%)のような働き方改革に関する項目が続いた。

n=930



◆政策・方針決定過程への女性の参画について

問9 現状では、政治や企業、地域活動などにおいて、意思決定を行う立場や地位への女性登用が未だに少ない状況です。あなたは、意思決定の場に女性が参画することについて、どのように考えますか。(1つに○)

現状よりも女性の登用が増える方がよいと考える人が8割以上を占める。

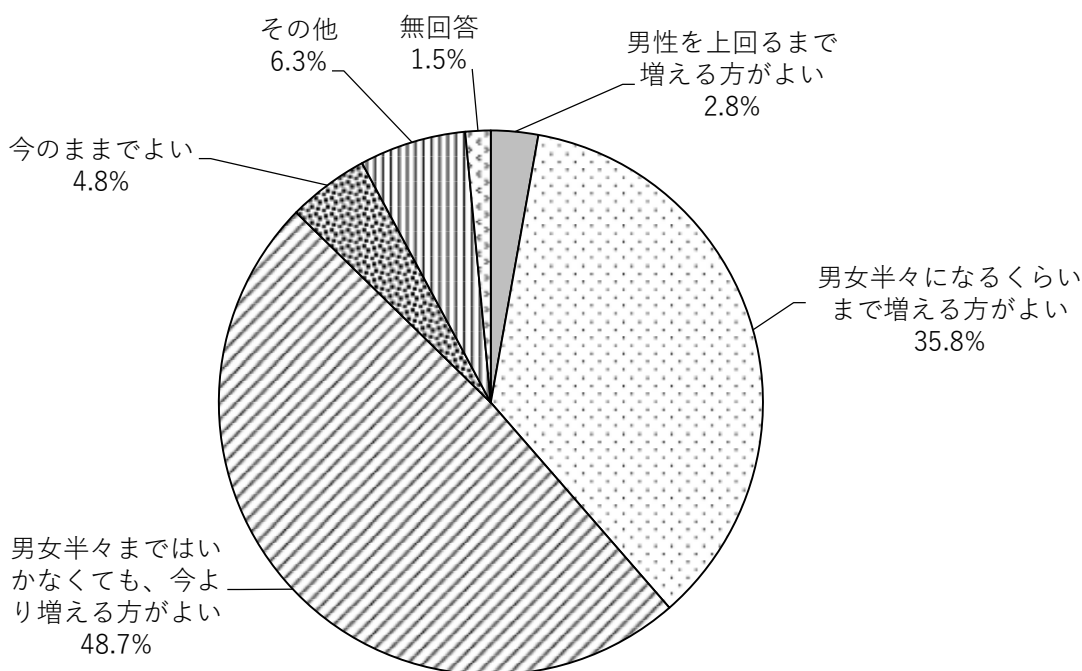
「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」が48.7%と最も高く、次いで「男女半々になるくらいまで増える方がよい」が35.8%と続いた。

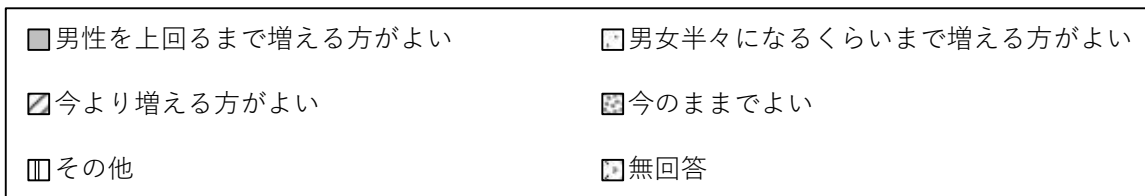
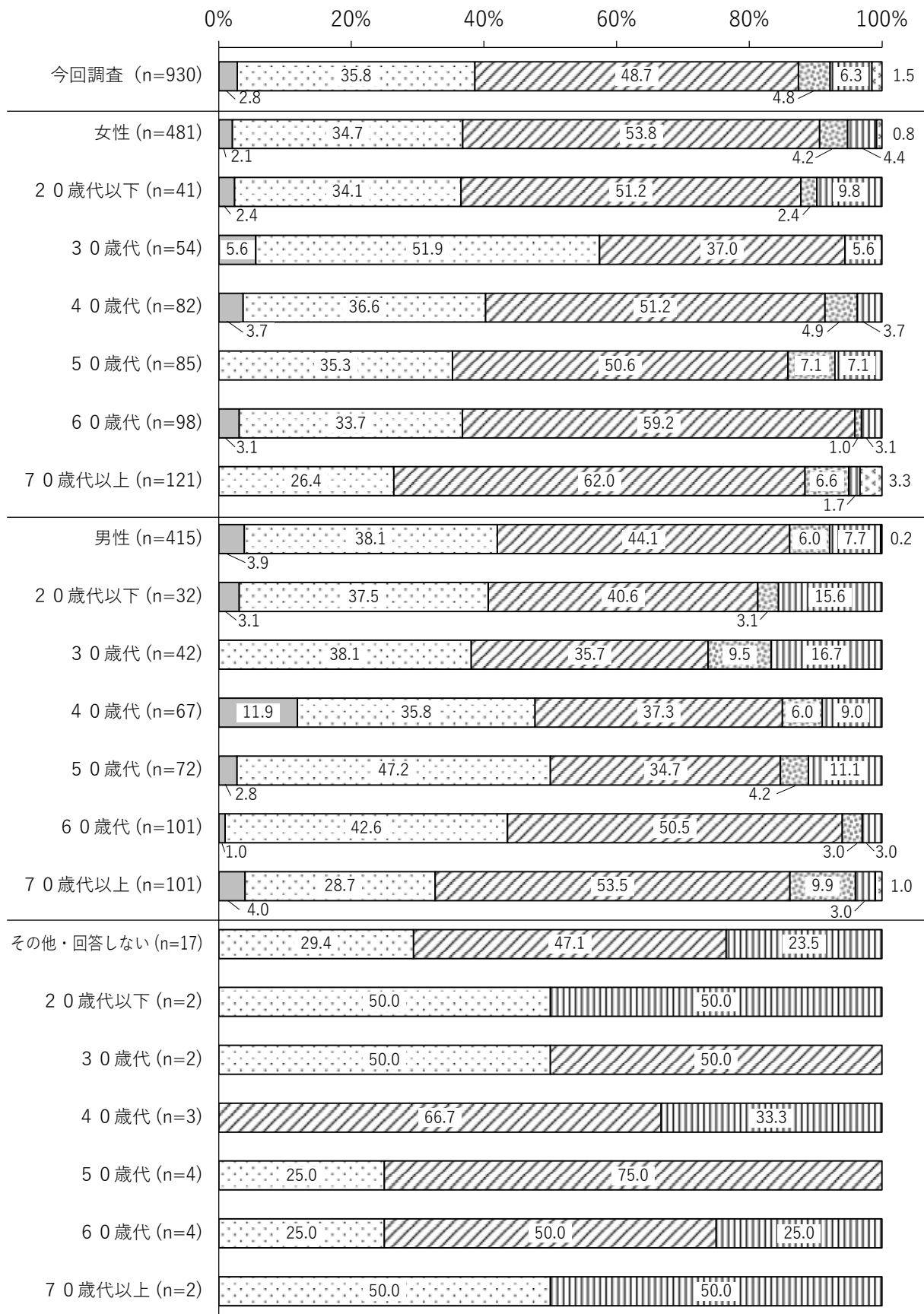
性別で見ると、女性、男性、その他・回答しないとも「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」が最も高く、次いで「男女半々になるくらいまで増える方がよい」が高かった。「男性を上回るまで増える方がよい」と「今のままでよい」はいずれも少数だった。

年齢別で見ると、「男女半々になるくらいまで増える方がよい」は、30歳代の女性で51.9%と最も高く、一方で30歳代の男性は38.1%と、13.8ポイントの差がみられた。「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」は、70歳代以上で女性が62.0%、男性は53.5%と、いずれも70歳代以上が最も高かった。

政策・方針の決定を行う立場や地位への女性登用を進めるべきと考える人が多いことがうかがえる。

n=930



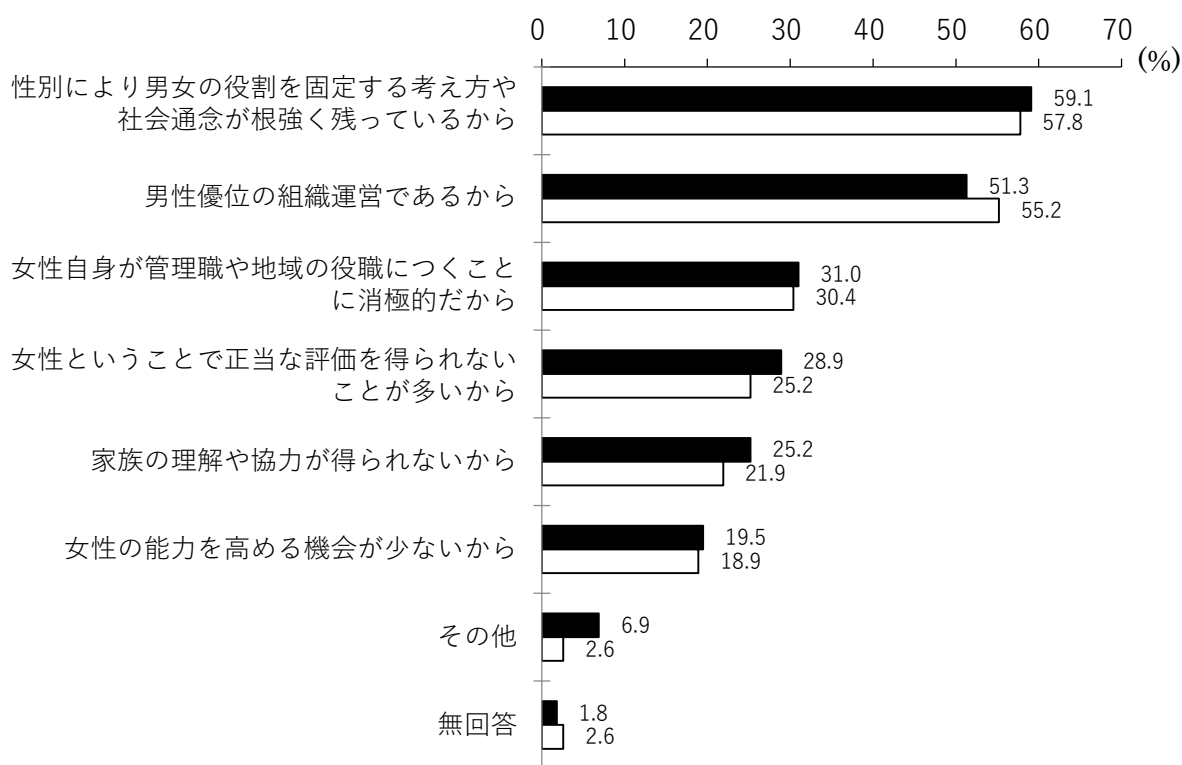


問 10 あなたは、政治や企業、地域活動などにおいて、意思決定をする管理職や指導的立場に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(あてはまるもの全てに○)

従来からの「固定的性別役割分担意識」と「男性優位の組織運営」が根強く残っている。

「性別により男女の役割を固定する考え方や社会通念が根強く残っているから」が59.1%で最も高く、次いで「男性優位の組織運営であるから」が51.3%と5割を超えた。

前回調査と比較しても、ほぼ傾向は変わらず、「固定的性別役割分担意識」と「男性優位の組織運営」が根強く残っていることがうかがえる。



■ 今回調査 (n=930)

□ H28前回調査 (n=1,211)



## ◆女性活躍推進について

問 11 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたの考えに最も近いのはどれですか。  
(1つに○)

育児・介護等にかかわらず女性が就業継続することへの意識が高い。

「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が58.1%で最も高かった。次いで「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が24.4%で高く、上位2項目で82.5%を占めた。その他の項目はいずれも少数意見だった。

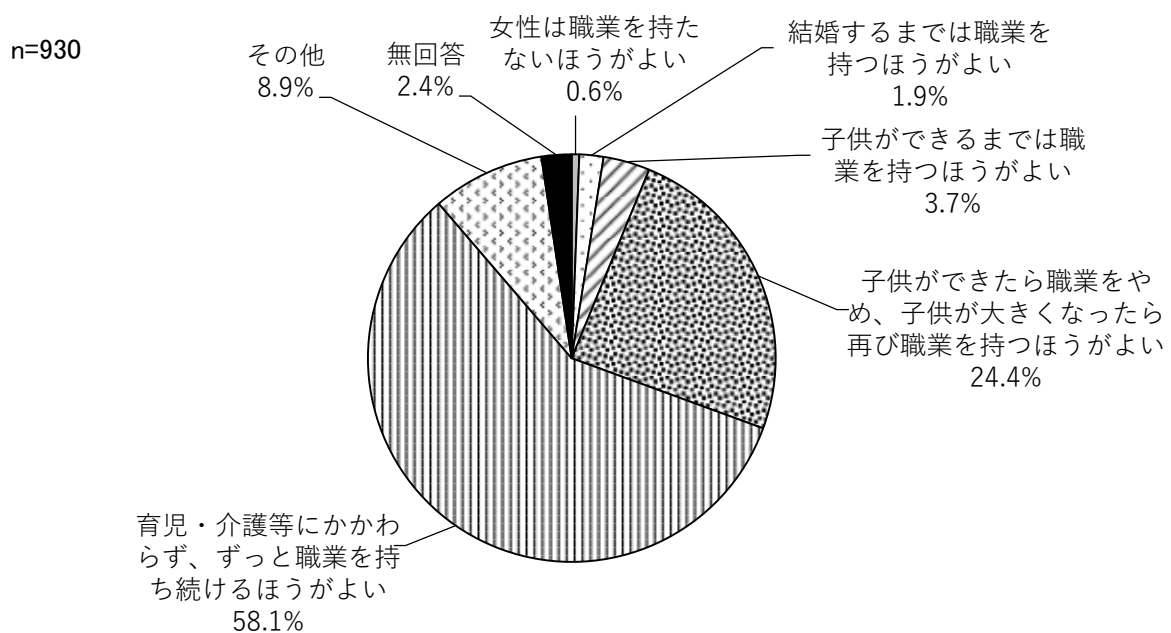
前回調査と比較すると、「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が21.2ポイント上昇し、逆に「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が19.9ポイント低下した。

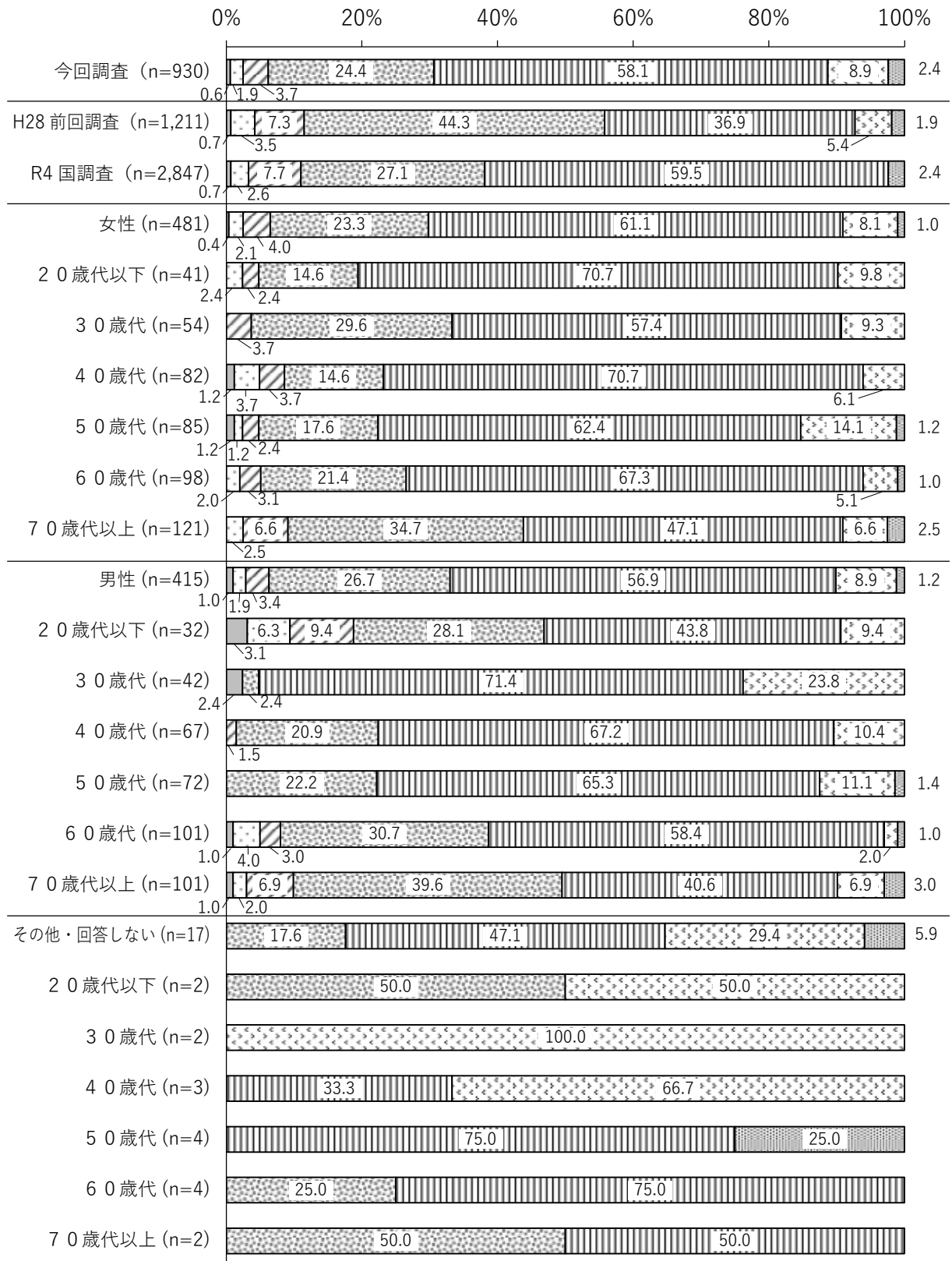
性別でみると、男女とも「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい」に大きな差はなかった。

年齢別でみると、「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい」は、女性では妊娠・出産の割合が高い30歳代で29.6%と高い傾向がみられたが、一方で、同じ30歳代の男性では2.4%と低く、27.2ポイントの大きな差がみられた。

「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」は、20歳代以下の女性で70.7%と高いが、一方で同じ20歳代以下の男性では43.8%と低く、26.9ポイントの大きな差がみられた。

20歳代以下と30歳代の男女に大きな意識の差がみられるが、総じて女性が就業継続することへの意識が高いことがうかがえる。





- 女性は無職業の方がよい
- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 子供ができるまでは職業を持つほうがよい
- 子供ができたなら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- 育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい
- その他
- 無回答

問 12 女性が職業を持つことについて、あなたの現状にあてはまるもの、または、あてはまると思われるものはどれですか。(1つに○)

※男性の方は、配偶者・パートナーの働き方など、ご家庭での状況で現状にあてはまる、またはあてはまると思われるものをお答えください。

女性の就労継続に対する考えと現状にギャップがみられる。

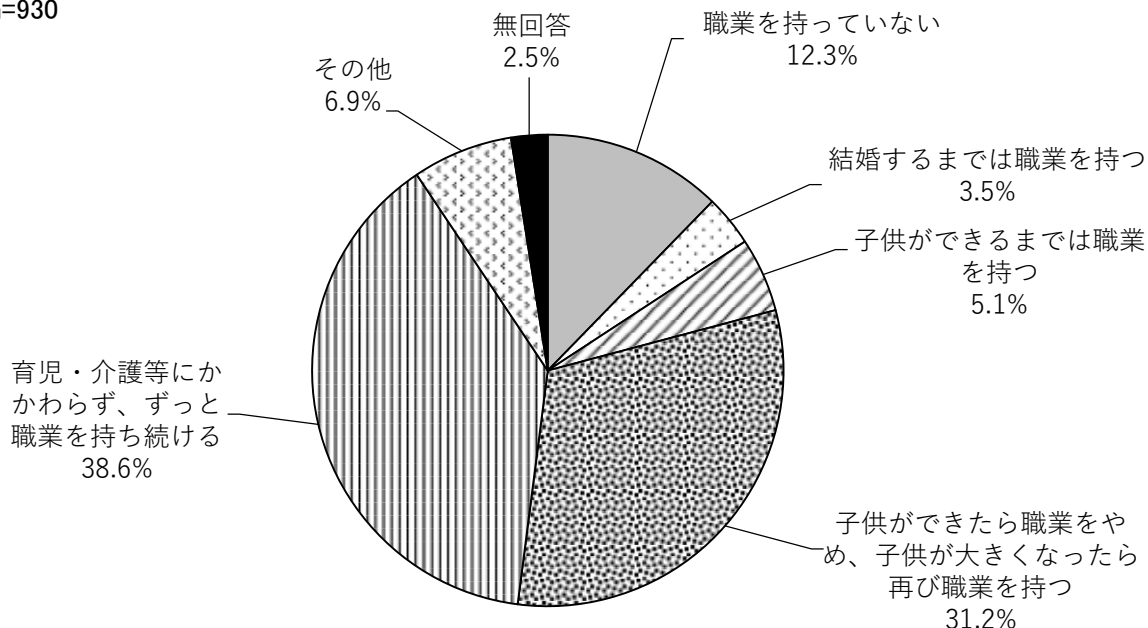
「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける」が38.6%で最も高く、次いで、「子供ができたら職業をやめ、子供が大きくなったら再び職業を持つ」が31.2%という結果となった。

問11の『女性が職業を持つことについての考え』と比較すると、「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」という考えが58.1%であるのに対し、「育児・介護等にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける」という現状が38.6%と、19.5ポイントの差がみられた。

育児・介護等にかかわらず女性が就労継続する方が望ましいと考えつつも、現状ではそれを選択している割合が低いことがうかがえる。

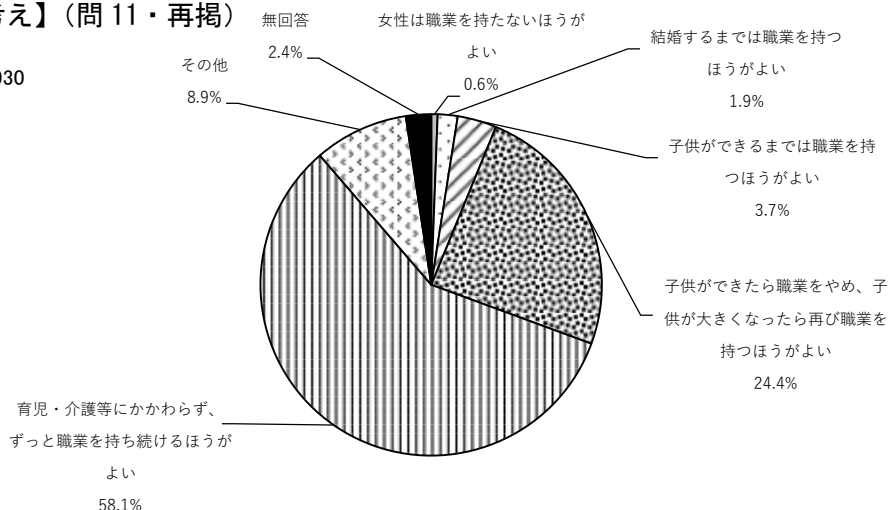
### 【現状】

n=930



### 【考え】(問11・再掲)

n=930



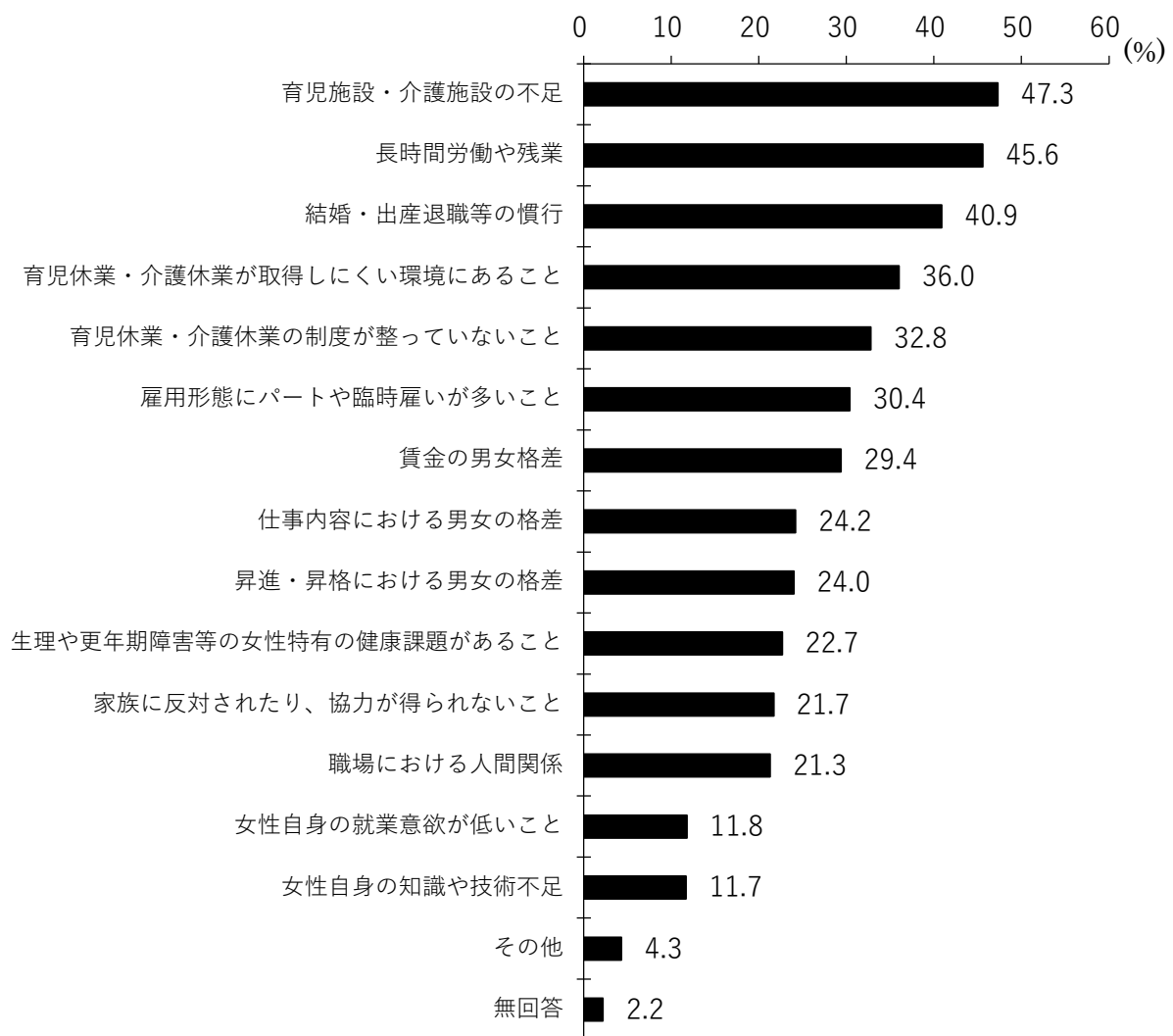
問 13 あなたは、女性が継続して働く上で、障害となっていることは何だと思いますか。  
(あてはまるもの全てに○)

育児・介護施設、雇用労働環境などが主な障害となっている。

「育児施設・介護施設の不足」が47.3%で最も高かった。次いで「長時間労働や残業」(45.6%)、「結婚・出産退職等の慣行」(40.9%)も割合が4割を超えている。ハード、ソフトの要因が絡み合って、女性が継続して働く上での障害となっている。

特に育児・介護に関しては、「育児・介護施設の不足」が47.3%、「育児・介護休業を取得しにくい環境」が36.0%、「育児・介護休業の制度が整っていない」は32.8%と高く、女性が継続して働く上で大きな障害になっていることがうかがえる。

n=930

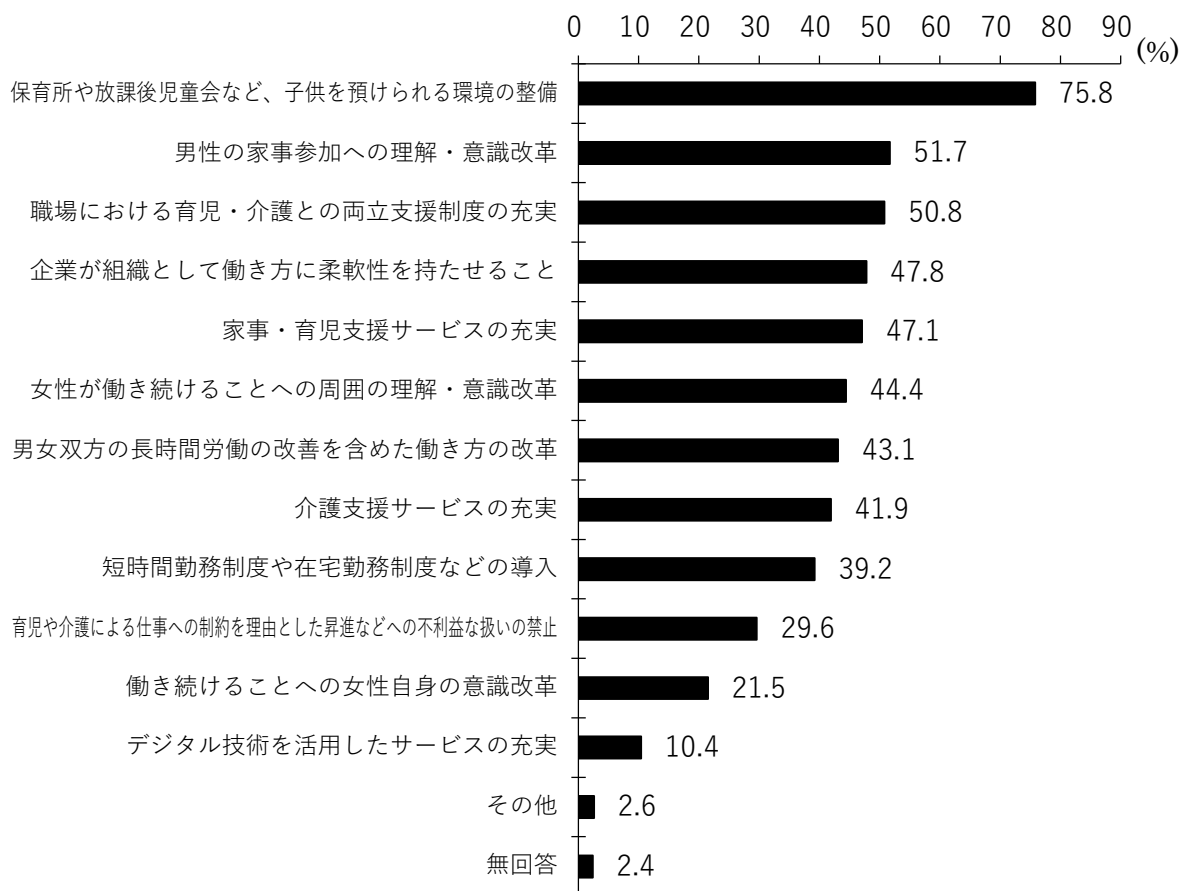


問 14 あなたは、女性が離職せずに同じ職場で働き続けられるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

「子供を預けられる環境の整備」をはじめ、様々な取組が求められる。

「保育所や放課後児童会など、子供を預けられる環境の整備」が75.8%と他の項目を引き離して最も高かった。次いで、「男性の家事参加への理解・意識改革」の51.7%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の50.8%と、家事・育児・介護に関連する項目が上位となった。それ以外の項目では、4割台が5項目、3割台が1項目あり、必要と思われる対策は多種多様となっている。

n=930



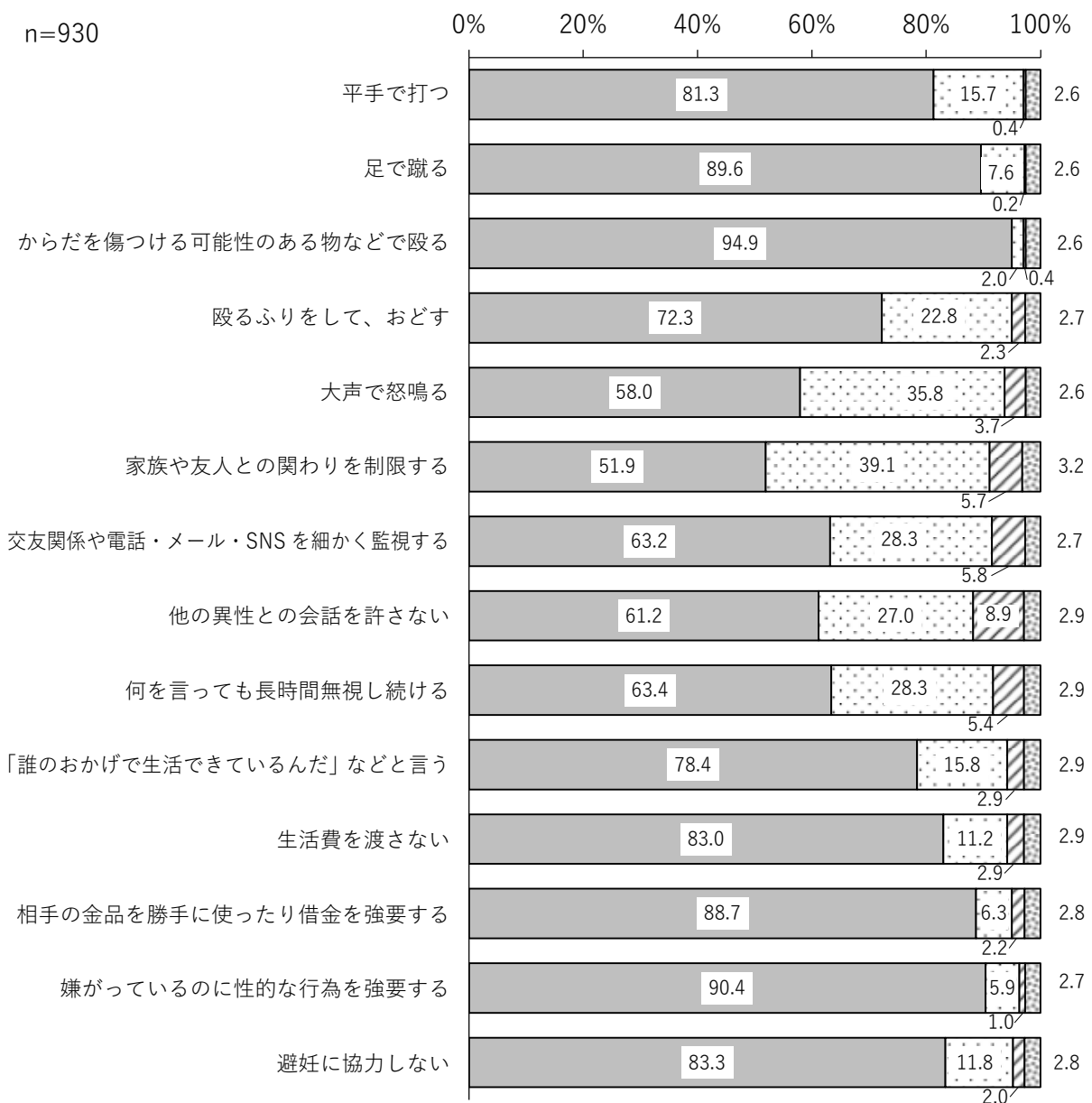
◆DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問 15 あなたは、次のようなことが配偶者やパートナーなどから行われた場合、暴力だと思いますか。（それぞれ1つに○）。

全ての項目において「どのような場合でも暴力にあたると思う」の回答が半数を超える。

全ての項目で、「どのような場合でも暴力にあたると思う」の回答が半数を超えた。

「どのような場合でも暴力にあたると思う」の割合が最も高かったのは、「からだを傷つける可能性のある物などで殴る」の94.9%。次いで、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」(90.4%)、「足で蹴る」(89.6%)の順に高く、身体的暴力や性的暴力に関する項目が上位を占めた。一方でそれ以外の精神的なものや行動制限・監視等に関する項目は比較的低かった。

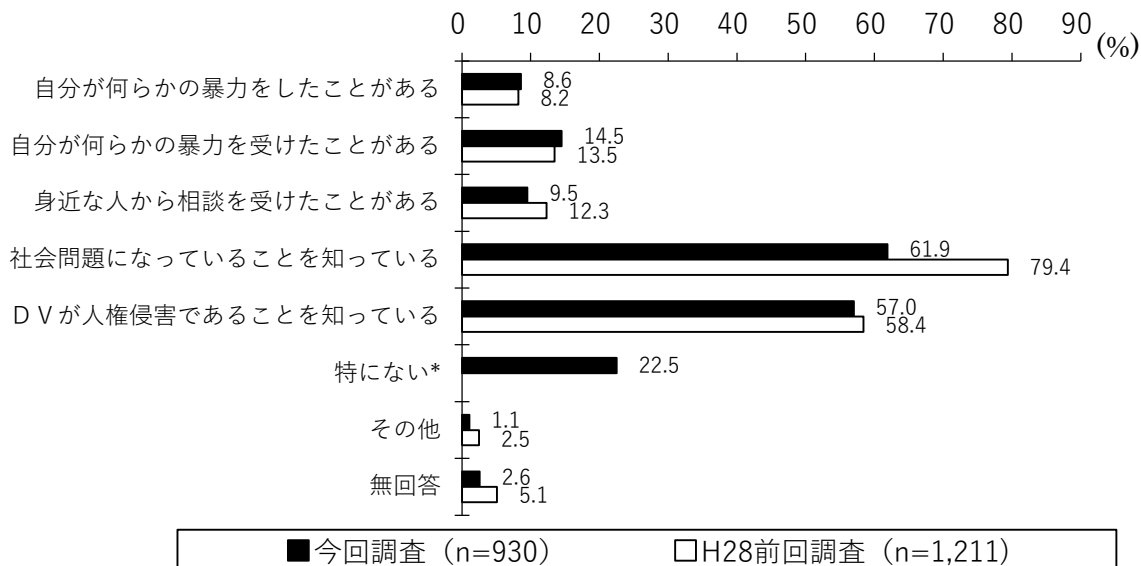


■ どのような場合でも暴力にあたると思う □ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う  
 ▨ 暴力にあたらぬと思う ▩ 無回答

問 16-1 配偶者やパートナーなどからの身体的（殴る、蹴る）、精神的（暴言や無視等）、経済的（生活費を渡さない等）、性的（性行為の強要）な暴力について、あなたの経験や知識としてあてはまるものはどれですか。（あてはまるもの全てに○）

DVの知識はあるが、実際にDVを経験したという人は少ない。

「社会問題になっていることを知っている」は61.9%と最も高かったが、「自分が何らかの暴力をしたことがある」(8.6%)、「自分が何らかの暴力を受けたことがある」(14.5%)の経験に関する項目は低かった。前回調査と比較すると、「社会問題になっていることを知っている」は17.5ポイント低下した。それ以外の項目については、前回とほぼ同じだった。

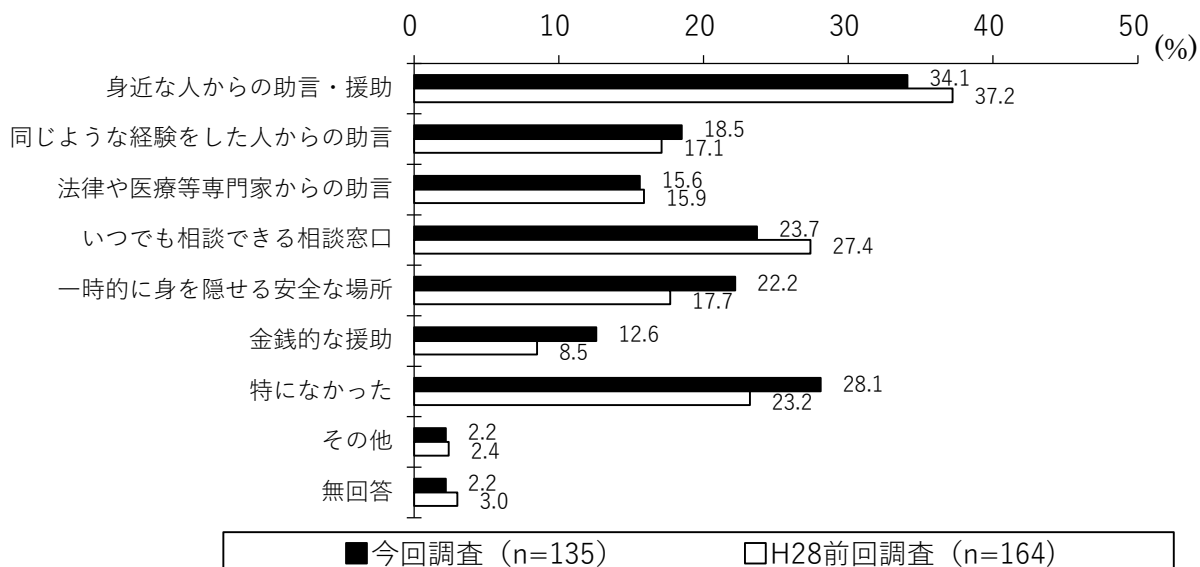


\*「特にない」の回答はH28 前回調査なし

問 16-2 問 16-1 で「2 自分が何らかの暴力を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。あなたは、そのときどのような助けがあればよいと思われましたか。（あてはまるもの全てに○）

「身近な人からの助言・援助」が最も多かったが、「特になかった」も多い結果となった。

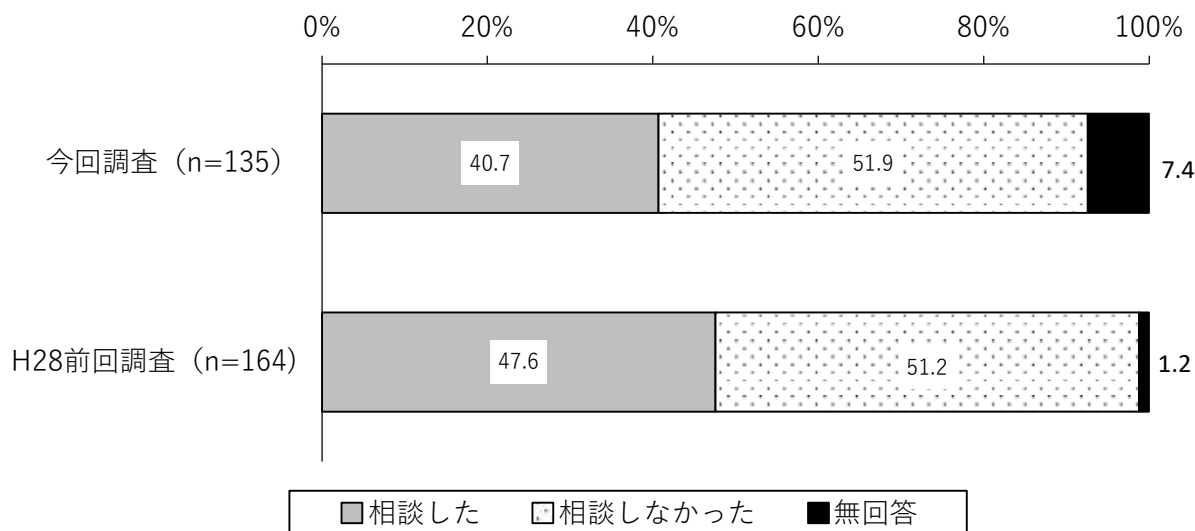
「身近な人からの助言・援助」が34.1%で最も高く、次いで「特になかった」が28.1%であった。前回調査と比較すると、避難場所や経済的支援の項目が上昇した。



問 16-3 問 16-1 で「2. 自分が何らかの暴力を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。あなたは、配偶者やパートナーなどから受けた暴力について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

「相談しなかった」が「相談した」を上回る。

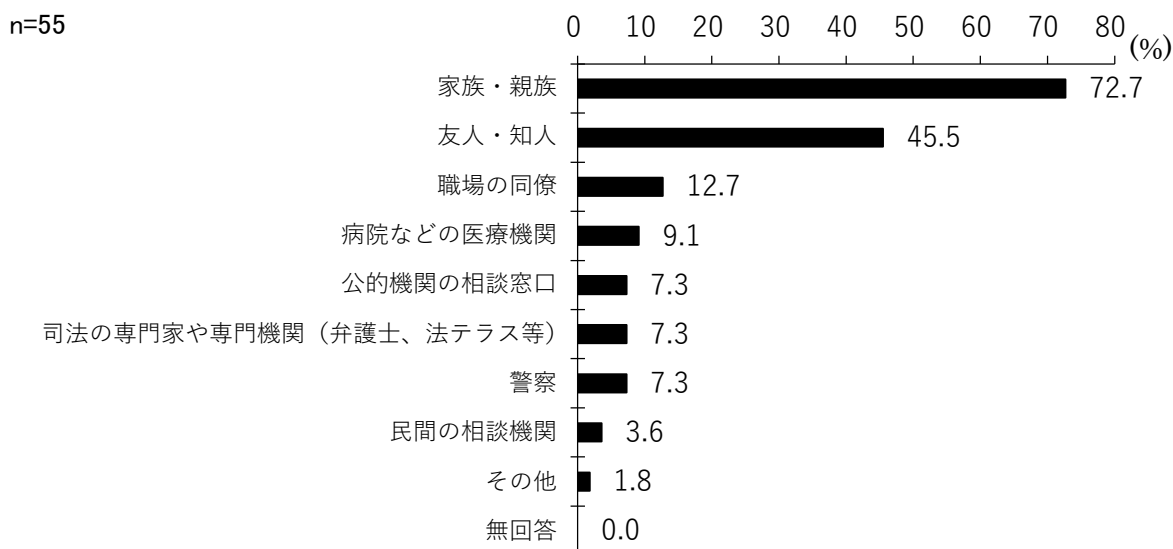
「相談しなかった」が 51.9% と半数を超え、「相談した」の 40.7% を 11.2 ポイント上回った。前回調査と比較すると、「相談した」が 6.9 ポイント低下した。



問 16-4 問 16-3 で「1. 相談した」と答えた方にお聞きします。だれ（どこ）に相談しましたか。（あてはまるもの全てに○）

身近な人への相談が多く、公的機関等への相談は少ない。

「家族・親族」が 72.7% で最も高く、次いで「友人・知人」が 45.5% だった。公的機関等への相談はいずれも少数だった。公的機関等への相談よりも、身近な人へ相談する傾向がうかがえる。

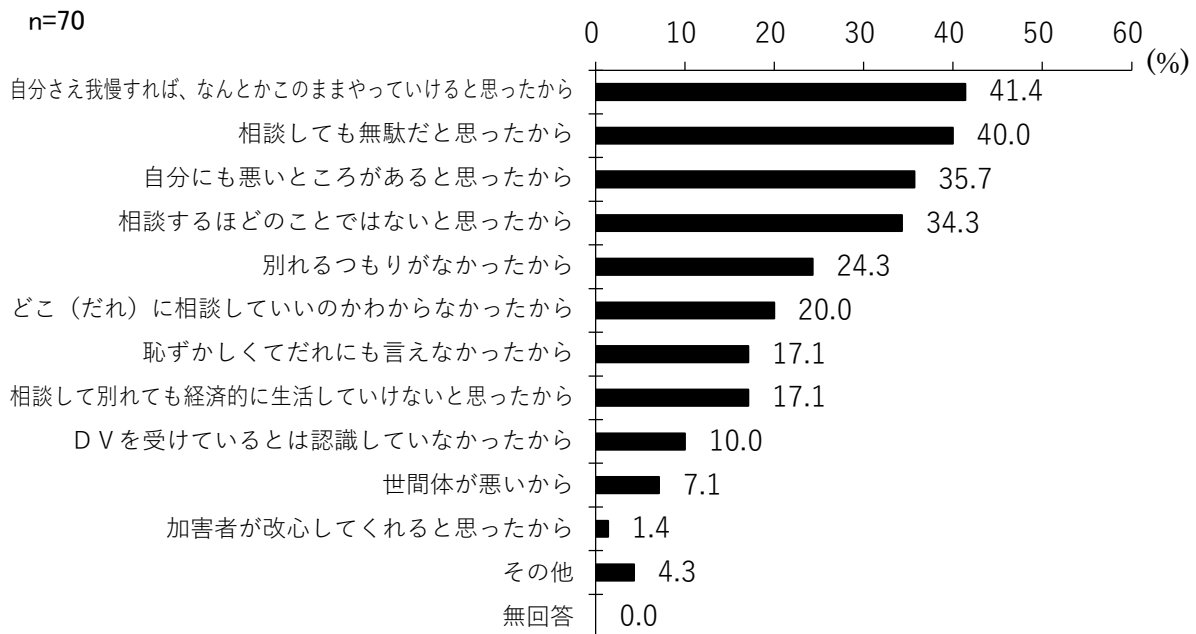




問 16-5 問 16-3 で「2. 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。  
(あてはまるもの全てに○)

「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が最も多い。

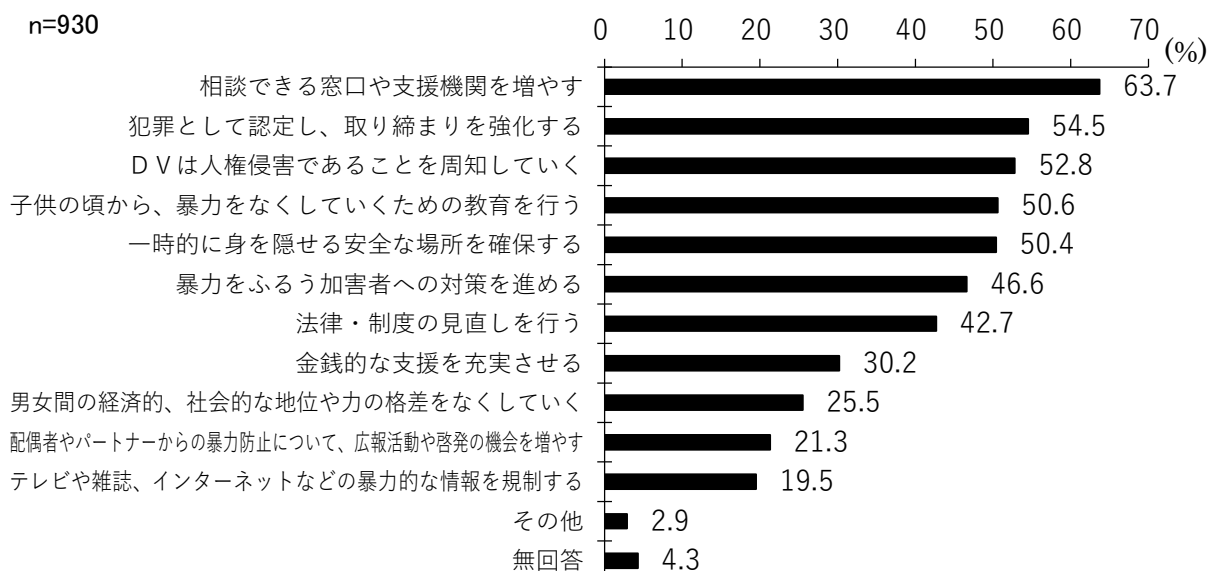
「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 41.4%で最も高く、次いで、「相談しても無駄だと思ったから」が 40.0%だった。相談支援につながらず、悩みを一人で抱え込んでしまう傾向にあることがうかがえる。



問 17 あなたは、配偶者やパートナーなどからの暴力をなくしたり、被害者を支援するために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

「相談できる窓口や支援機関を増やす」ことが必要である。

「相談できる窓口や支援機関を増やす」が 63.7%で最も高く、次いで、「犯罪として認定し、取り締まりを強化する」が 54.5%だった。相談窓口や支援体制の強化が重要である。



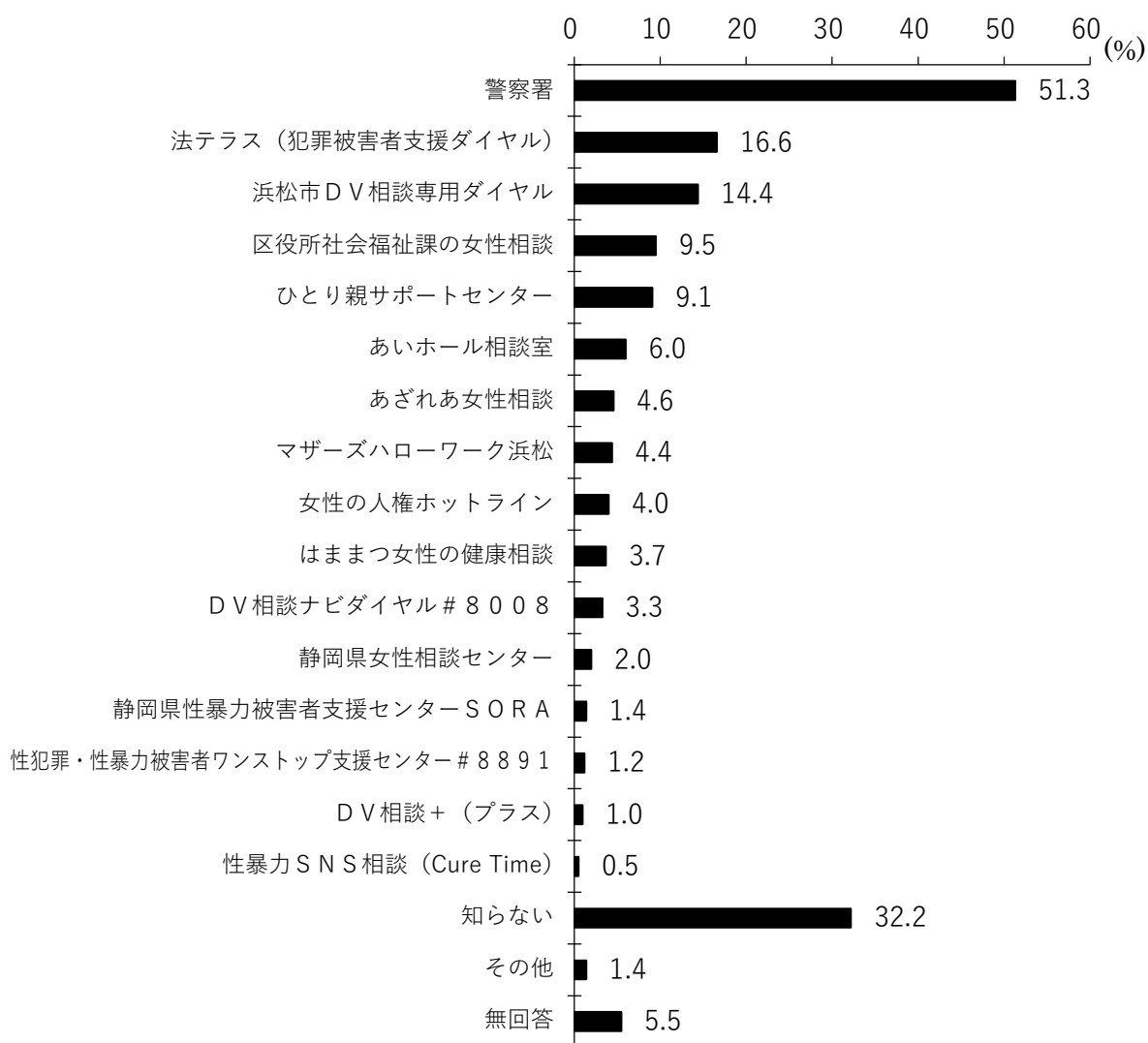
問 18 あなたは、DVや女性が抱える様々な悩みに関する相談窓口があることを知っていますか。(あてはまるもの全てに○)

警察署を除き、各相談支援機関の認知度は低い状況である。

「警察署」が51.3%で最も高かった。「知らない」も32.2%あり、相談窓口は多数あるものの、認知度が低いことがうかがえる。

性別で見ると、「警察署」を除き、10.0%を超えた相談窓口は、女性では「法テラス（犯罪被害者支援ダイヤル）」（18.9%）、「浜松市DV相談専用ダイヤル」（16.4%）、「ひとり親サポートセンター」（14.1%）、「区役所社会福祉課の女性相談」（11.9%）のみだった。男性では「法テラス（犯罪被害者支援ダイヤル）」（14.5%）、「浜松市DV相談専用ダイヤル」（13.3%）のみだった。総じて各相談窓口の認知度が低い傾向がうかがえる。

n=930



(%)

	n	専用ダイヤル	浜松市DV相談	課の女性相談	区役所社会福祉	あいホール相談室	ひとり親サポートセンター	健康相談	はままつ女性の	DV相談ナビダイヤル#8008	DV相談+（プラス）	女性の権利ホットライン	被害者支援ダイヤル（犯罪テラス）	法テラス（犯罪）
女性	481	16.4	11.9	6.2	14.1	4.6	3.3	0.8	5.6	18.9				
20歳代以下	41	14.6	4.9	7.3	7.3	7.3	0.0	0.0	12.2	29.3				
30歳代	54	20.4	9.3	7.4	20.4	7.4	9.3	0.0	5.6	18.5				
40歳代	82	15.9	12.2	6.1	19.5	8.5	2.4	0.0	6.1	25.6				
50歳代	85	14.1	9.4	4.7	12.9	1.2	0.0	1.2	3.5	17.6				
60歳代	98	23.5	12.2	5.1	16.3	3.1	7.1	1.0	6.1	19.4				
70歳代以上	121	11.6	16.5	7.4	9.1	3.3	1.7	1.7	4.1	11.6				
男性	415	13.3	7.2	6.0	4.1	2.9	3.6	1.2	2.2	14.5				
20歳代以下	32	15.6	3.1	9.4	3.1	3.1	0.0	3.1	0.0	18.8				
30歳代	42	4.8	4.8	4.8	4.8	2.4	0.0	0.0	0.0	9.5				
40歳代	67	11.9	1.5	3.0	0.0	1.5	4.5	0.0	1.5	9.0				
50歳代	72	8.3	4.2	2.8	4.2	1.4	4.2	0.0	4.2	20.8				
60歳代	101	17.8	11.9	8.9	8.9	4.0	4.0	3.0	3.0	15.8				
70歳代以上	101	15.8	10.9	6.9	2.0	4.0	5.0	1.0	2.0	12.9				
その他・回答しない	17	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	17.6				
20歳代以下	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0				
30歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
40歳代	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3				
50歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
60歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0				
70歳代以上	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				

	ワザーズ浜松	静岡県女性相談センター	あざれあ女性相談	TiCure	性暴力相談センター	静岡県支援センター	女性犯罪被害者支援センター	警察署	知らない	その他	無回答
女性	6.9	1.9	5.0	0.6	1.9	1.2	49.3	30.6	1.7	4.6	
20歳代以下	0.0	2.4	2.4	0.0	0.0	2.4	61.0	29.3	0.0	0.0	
30歳代	13.0	0.0	5.6	0.0	1.9	1.9	61.1	20.4	0.0	1.9	
40歳代	17.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	46.3	30.5	1.2	0.0	
50歳代	7.1	1.2	4.7	1.2	2.4	1.2	56.5	30.6	2.4	2.4	
60歳代	4.1	4.1	10.2	1.0	2.0	1.0	54.1	32.7	3.1	2.0	
70歳代以上	1.7	2.5	5.0	0.8	3.3	0.8	33.1	33.9	1.7	14.0	
男性	1.9	2.4	4.6	0.5	1.0	1.2	56.4	33.5	1.2	3.6	
20歳代以下	0.0	3.1	0.0	3.1	0.0	0.0	65.6	28.1	3.1	0.0	
30歳代	0.0	0.0	2.4	0.0	2.4	0.0	57.1	33.3	2.4	2.4	
40歳代	1.5	1.5	6.0	0.0	0.0	1.5	46.3	50.7	0.0	0.0	
50歳代	2.8	2.8	4.2	0.0	0.0	0.0	55.6	36.1	2.8	0.0	
60歳代	3.0	5.0	5.9	0.0	0.0	1.0	57.4	30.7	0.0	5.0	
70歳代以上	2.0	1.0	5.0	1.0	3.0	3.0	59.4	24.8	1.0	8.9	
その他・回答しない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.4	64.7	0.0	0.0	
20歳代以下	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
30歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
40歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	
50歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
60歳代	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
70歳代以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	

◆男女共同参画の推進拠点施設について

問 19 あなたは、男女共同参画の推進拠点施設である「浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター（あいホール）」を利用したことがありますか。（1つに○）

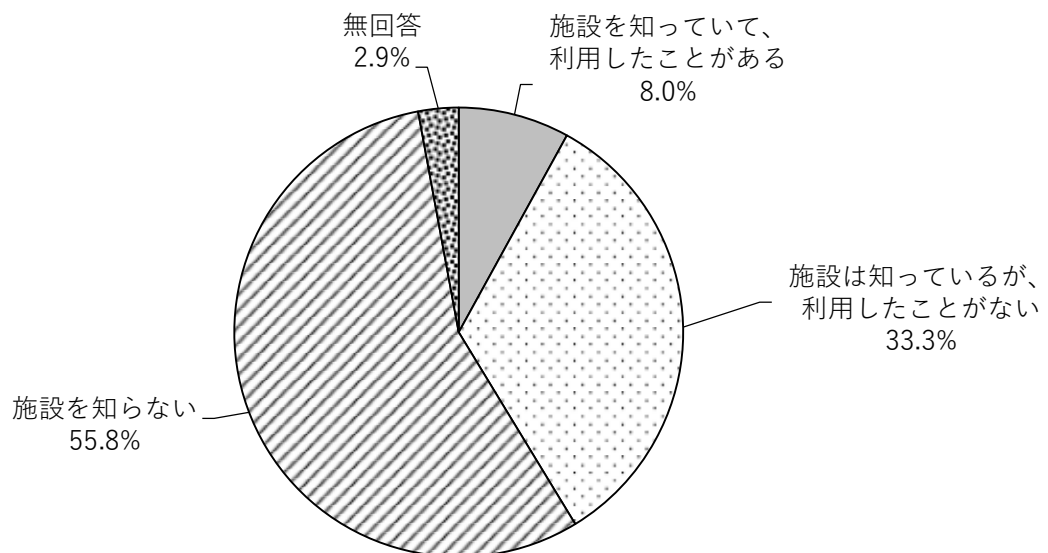
あいホールを知っている人は約4割にとどまる。

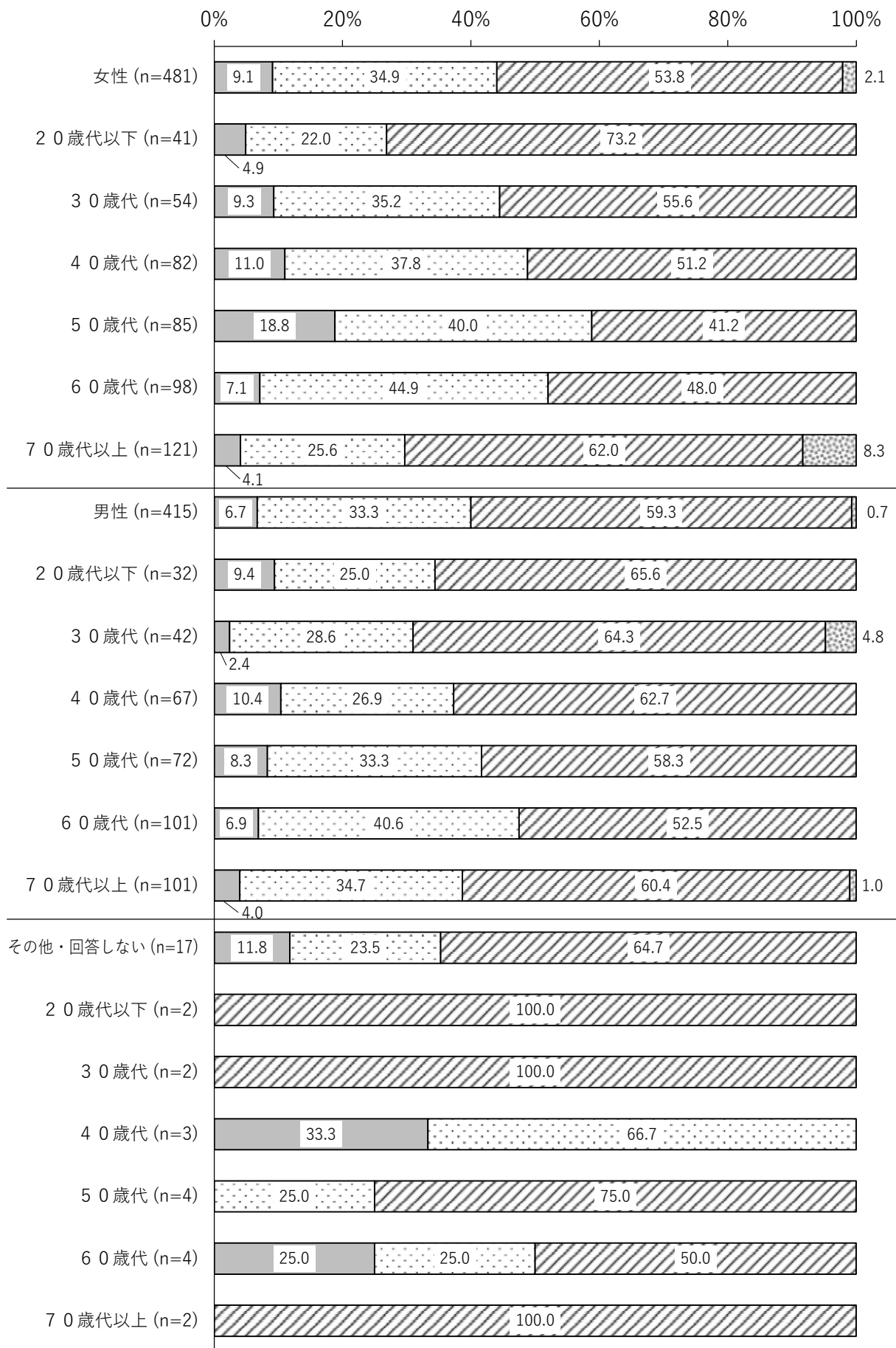
「施設を知っていて、利用したことがある」は8.0%にとどまり、「施設は知っているが、利用したことはない」(33.3%)と合わせた『認知度』は41.3%となった。「施設を知らない」が55.8%と過半数を占めた。

性別でみると、『認知度』は女性44.0%、男性40.0%と女性の方が4.0ポイント高かった。

年齢別でみると、『認知度』は、男女とも50歳代と60歳代が高く、20歳代以下と30歳代が低かった。

n=930





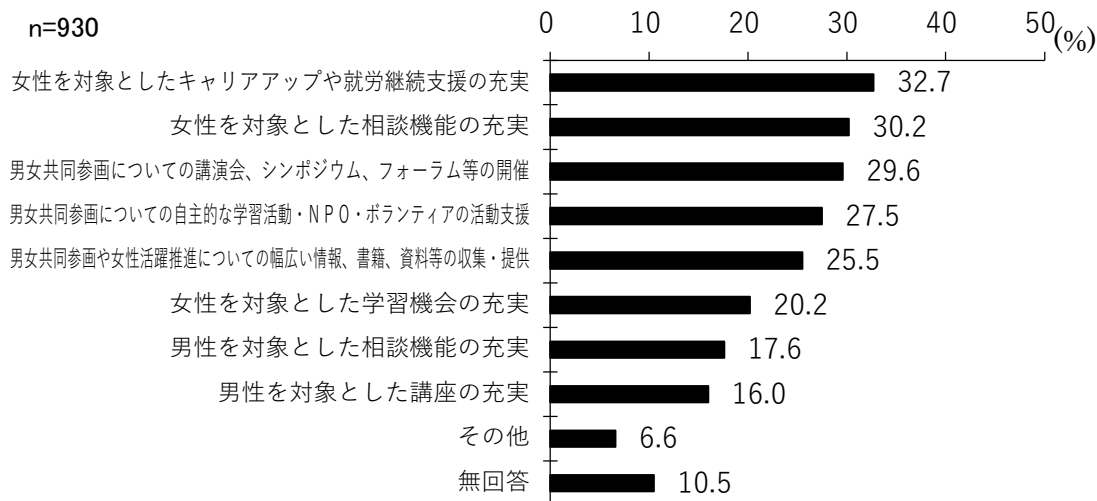
施設を知っていて、利用したことがある       施設は知っているが、利用したことがない  
 施設を知らない       無回答

問 20 「あいホール」では次のような男女共同参画に関する業務を行っていますが、どのような役割を期待しますか。(あてはまるもの全てに○)

キャリアアップや就労継続支援、相談機能など、様々な業務の充実が期待されている。

「女性を対象としたキャリアアップや就労継続支援の充実」が32.7%で最も高く、次いで「女性を対象とした相談機能の充実」が30.2%だった。

性別で見ると、女性は「女性を対象としたキャリアアップや就労継続支援の充実」が37.2%で最も高く、男性は「男女共同参画についての講演会、シンポジウム、フォーラム等の開催」が38.8%で最も高かった。回答が分散しており、あいホールには多様な業務が期待されていることがうかがえる。



【性別、年齢別】

(%)

	n	女性を対象とした学習機会の充実	女性を対象としたキャリアアップや就労継続支援の充実	男性を対象とした講座の充実	講演会、シンポジウム等の開催	女性を対象とした相談機能の充実	男性を対象とした相談機能の充実	NPO・ボランティアの活動支援	自主的な学習活動	男女共同参画についての幅広い情報、書籍、資料等の収集・提供	女性共同参画についての女性活躍推進	その他	無回答
女性	481	23.3	37.2	15.0	23.1	35.1	17.3	25.6	22.2	5.0	11.0		
20歳代以下	41	19.5	46.3	17.1	14.6	51.2	39.0	24.4	19.5	4.9	2.4		
30歳代	54	33.3	63.0	25.9	25.9	50.0	22.2	24.1	25.9	1.9	1.9		
40歳代	82	26.8	42.7	14.6	18.3	37.8	19.5	20.7	22.0	7.3	6.1		
50歳代	85	24.7	35.3	14.1	17.6	36.5	16.5	21.2	16.5	7.1	5.9		
60歳代	98	24.5	34.7	15.3	41.8	31.6	16.3	34.7	27.6	4.1	6.1		
70歳代以上	121	15.7	22.3	9.9	16.5	23.1	7.4	25.6	21.5	4.1	28.9		
男性	415	17.8	29.2	17.8	38.8	26.0	18.6	30.6	30.4	8.4	6.5		
20歳代以下	32	28.1	43.8	31.3	25.0	40.6	40.6	25.0	25.0	9.4	0.0		
30歳代	42	21.4	31.0	19.0	23.8	33.3	28.6	23.8	28.6	23.8	2.4		
40歳代	67	22.4	35.8	28.4	38.8	19.4	16.4	22.4	26.9	6.0	1.5		
50歳代	72	19.4	23.6	19.4	29.2	33.3	20.8	33.3	36.1	11.1	0.0		
60歳代	101	10.9	31.7	13.9	47.5	30.7	18.8	39.6	31.7	5.0	9.9		
70歳代以上	101	15.8	20.8	8.9	47.5	12.9	6.9	29.7	29.7	5.0	14.9		
その他・回答しない	17	5.9	17.6	17.6	17.6	23.5	23.5	35.3	11.8	5.9	23.5		
20歳代以下	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
30歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0		
40歳代	3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0		
50歳代	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0		
60歳代	4	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0		
70歳代以上	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0		

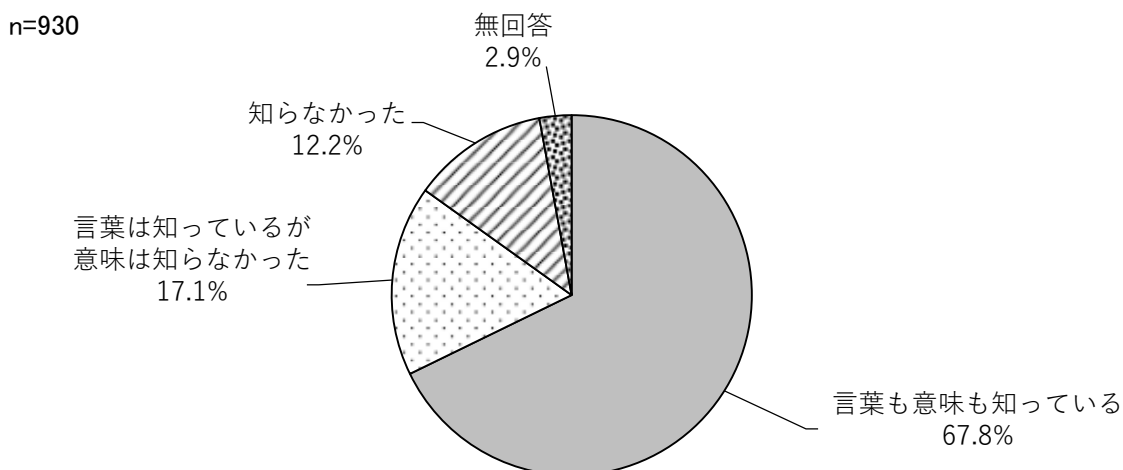
◆性の多様性の理解促進について

問 21 あなたはLGBTQ（性的マイノリティ・性的少数者）という言葉を知っていますか。  
（1つに○）

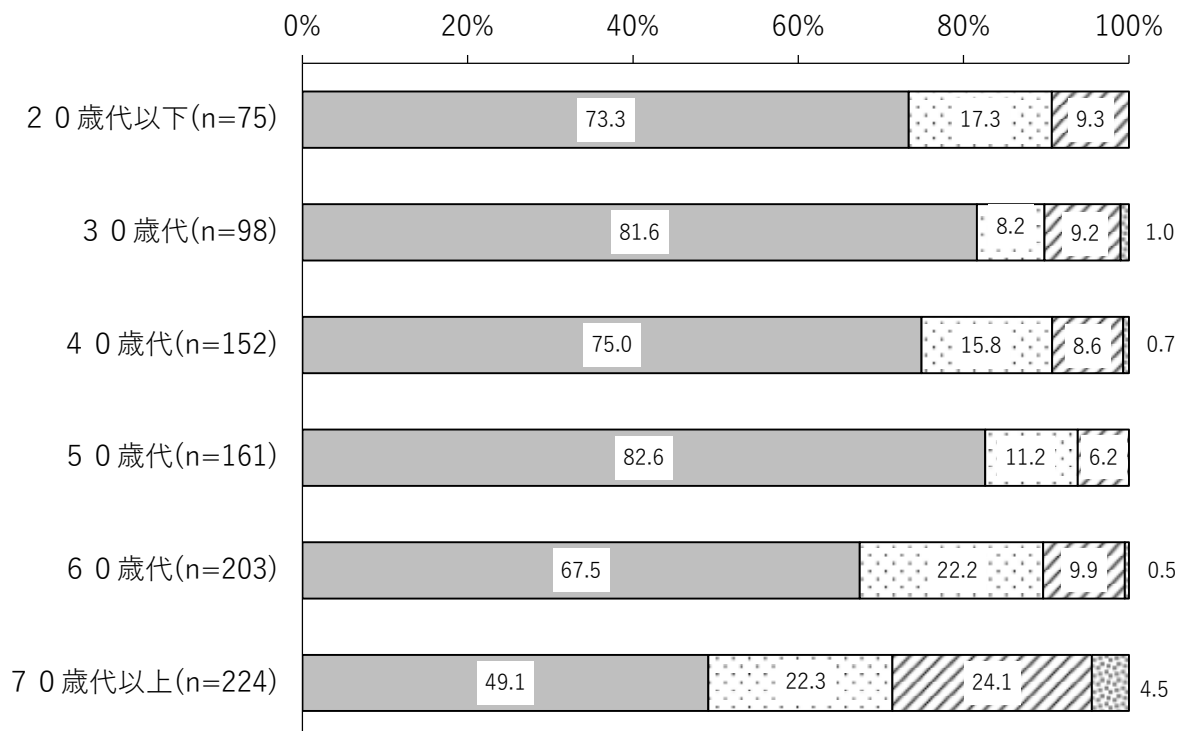
LGBTQ（性的マイノリティ・性的少数者）の認知度は8割を超える。

「言葉も意味も知っている」が67.8%で最も高く、「言葉は知っているが意味は知らなかった」（17.1%）を合わせた『認知度』は84.9%と高い割合となった。

年齢別でみると、60歳代までの『認知度』は約9割と高いが、70歳代以上は比較的低い結果となった。



【年齢別】



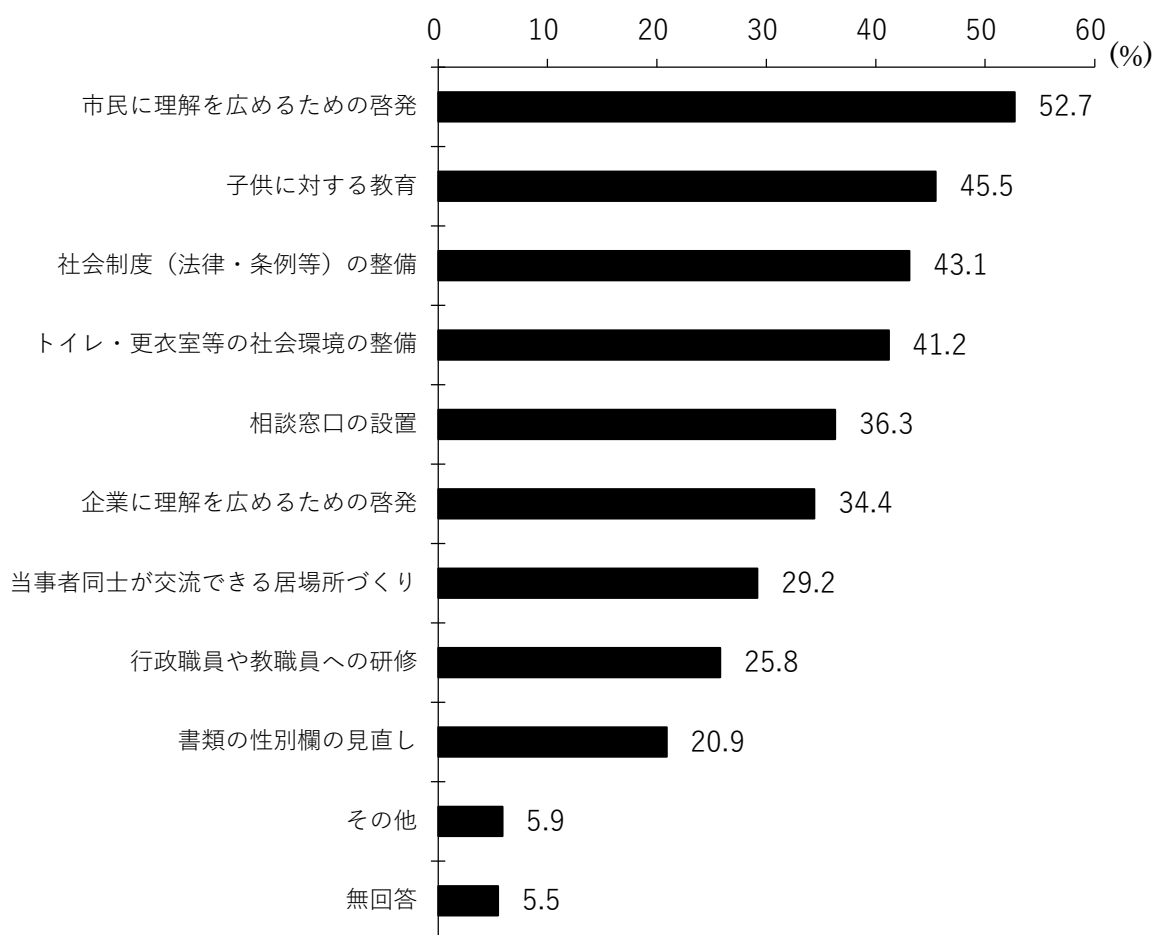
- 言葉も意味も知っている
- 言葉は知っているが意味は知らなかった
- 知らなかった
- 無回答

問 22 あなたはLGBTQなどの性的マイノリティの方々への支援のために、どのような取組が必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

理解を広めるための啓発や子供に対する教育が必要である。

「市民に理解を広めるための啓発」が52.7%で最も高く、次いで「子供に対する教育」が45.5%であり、理解促進に関する取組の必要性が高い結果となった。次に、「社会制度（法律・条例等）の整備」（43.1%）、「トイレ・更衣室等の社会環境の整備」（41.2%）の制度及び環境整備に関する取組が続いた。

n=930





◆コロナ禍以降の生活の変化について

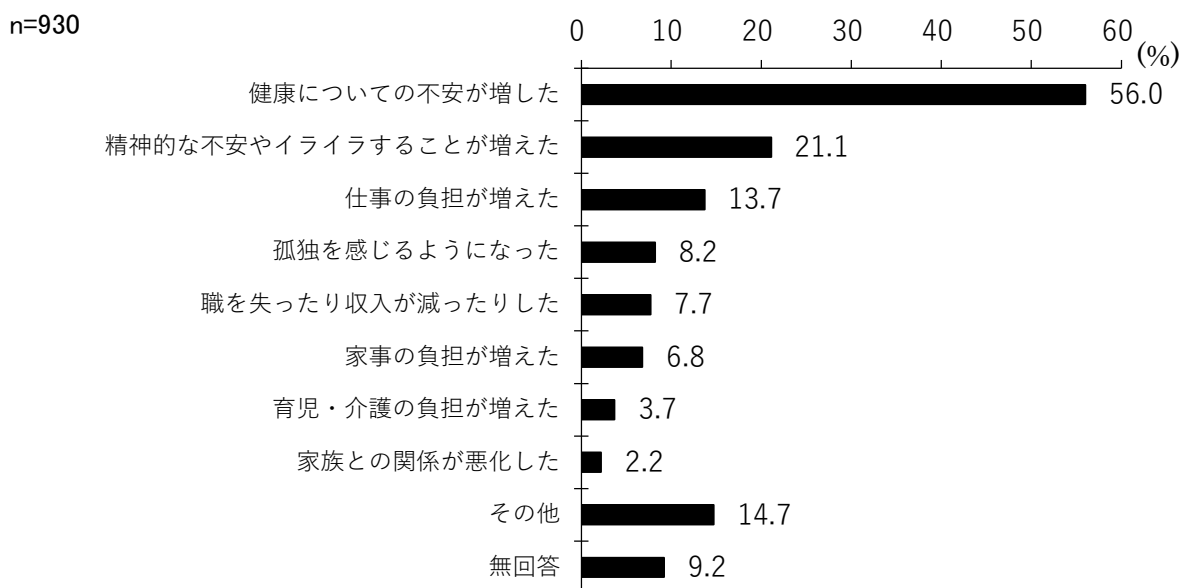
問 23 あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大以降、生活や行動に次のような変化がありましたか。(あてはまるものに全てに○)

「健康についての不安が増した」が最も多い。

「健康についての不安が増した」が56.0%と、他の項目を引き離して最も高かった。

性別で見ると、男女とも「健康についての不安が増した」が最も高かった。

年齢別で見ると、男女とも20歳代以下から40歳代で「仕事の負担が増えた」「精神的な不安やイライラすることが増えた」の割合が高い傾向がみられた。「孤独を感じるようになった」は男女ともに20歳代以下の割合が高かった。



【性別、年齢別】

(%)

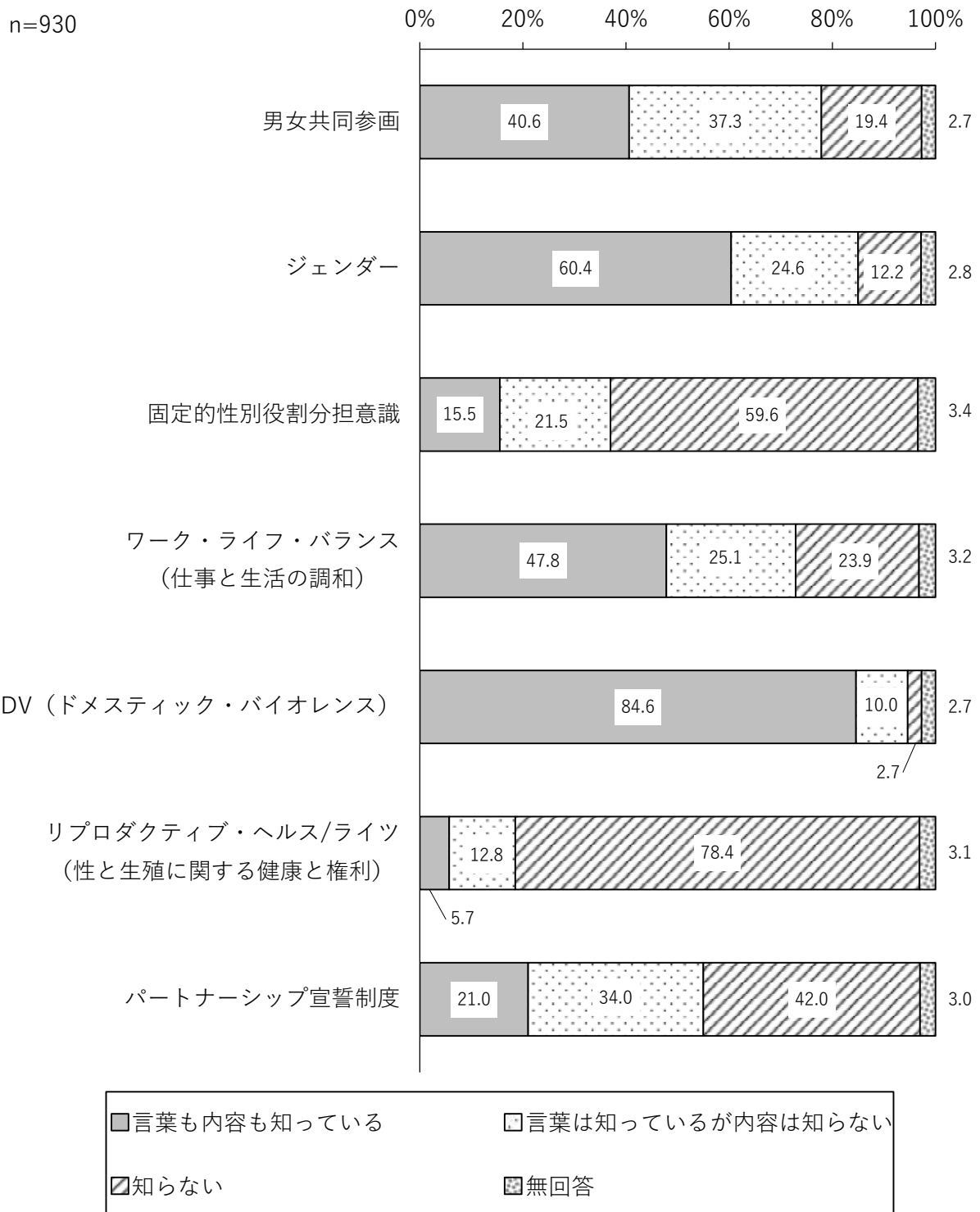
	n	仕事の負担が増えた	収入が減った	職を失った	精神的な不安やイライラが増えた	家事的負担が増えた	育児・介護の負担が増えた	家族との関係が悪化した	孤独を感じるようになった	健康についての不安が増した	その他	無回答
女性	481	13.1	7.9	22.7	10.0	4.6	2.9	9.1	58.2	13.7	8.7	
20歳代以下	41	19.5	7.3	24.4	2.4	2.4	0.0	14.6	56.1	19.5	0.0	
30歳代	54	20.4	7.4	33.3	11.1	9.3	5.6	11.1	61.1	14.8	0.0	
40歳代	82	22.0	9.8	19.5	15.9	12.2	4.9	11.0	48.8	17.1	1.2	
50歳代	85	14.1	15.3	17.6	14.1	1.2	3.5	9.4	54.1	17.6	7.1	
60歳代	98	11.2	6.1	22.4	7.1	5.1	4.1	7.1	60.2	12.2	13.3	
70歳代以上	121	2.5	3.3	23.1	7.4	0.0	0.0	6.6	65.3	7.4	18.2	
男性	415	14.7	7.5	20.2	3.1	2.9	1.4	7.5	56.9	15.2	7.0	
20歳代以下	32	21.9	3.1	28.1	0.0	0.0	0.0	18.8	46.9	21.9	6.3	
30歳代	42	31.0	14.3	14.3	2.4	4.8	2.4	2.4	35.7	23.8	0.0	
40歳代	67	20.9	14.9	26.9	7.5	4.5	3.0	3.0	43.3	14.9	4.5	
50歳代	72	18.1	9.7	15.3	2.8	5.6	0.0	1.4	56.9	23.6	5.6	
60歳代	101	10.9	4.0	15.8	1.0	1.0	1.0	6.9	63.4	11.9	10.9	
70歳代以上	101	3.0	3.0	23.8	4.0	2.0	2.0	13.9	71.3	6.9	8.9	
その他・回答しない	17	17.6	11.8	17.6	11.8	0.0	0.0	5.9	17.6	41.2	5.9	
20歳代以下	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
30歳代	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
40歳代	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
50歳代	4	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	
60歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	
70歳代以上	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	

◆男女共同参画に関する施策について

問 24 あなたは次のことを知っていますか。(それぞれ1つに○)

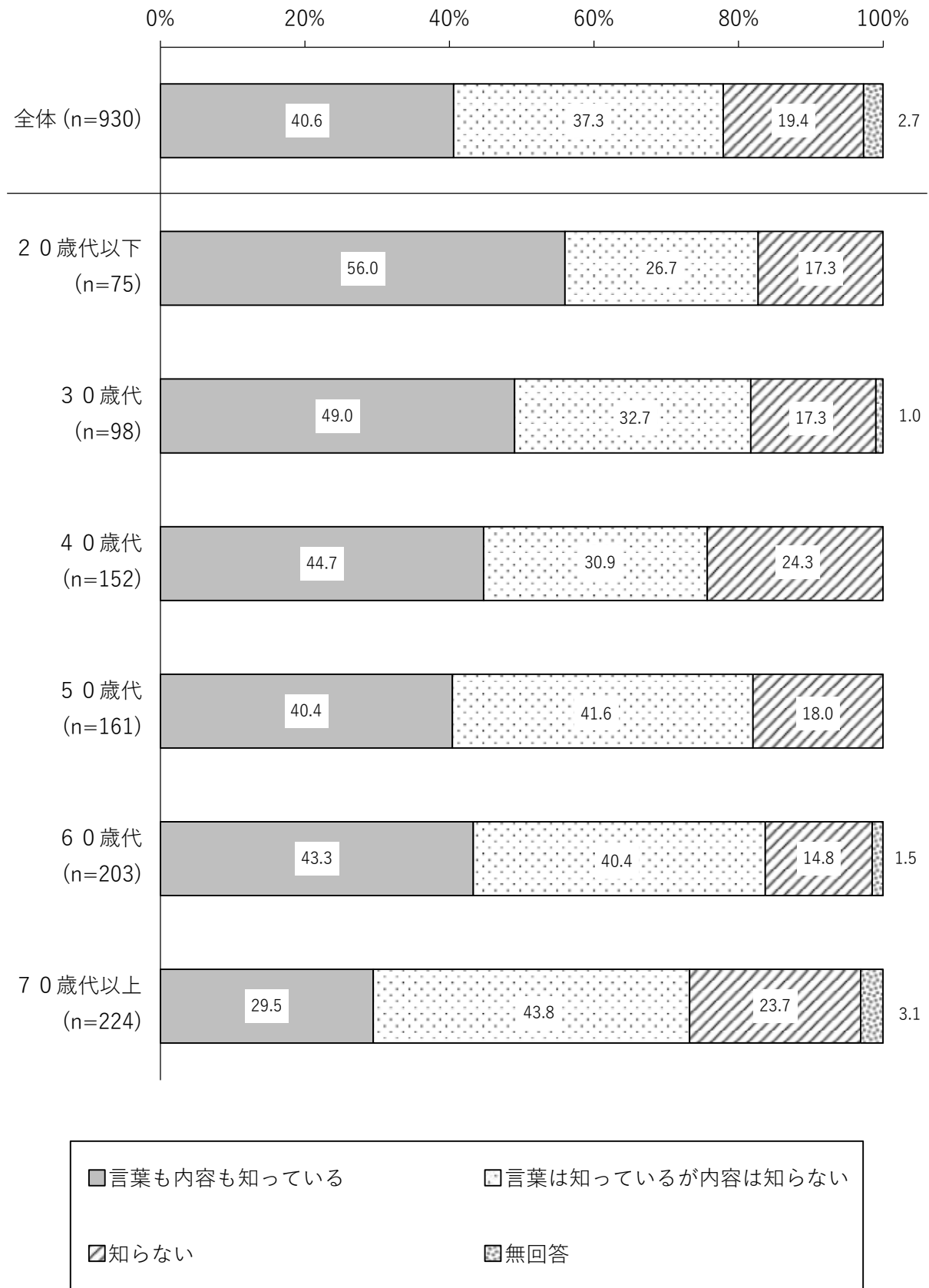
「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の認知度は9割を超える。

「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容は知らない」を合わせた『認知度』は、「DV」が94.6%と最も高く、次いで「ジェンダー」(85.0%)、「男女共同参画」(77.9%)となった。本市において2020年4月に開始した「パートナーシップ宣誓制度」は55.0%だった。「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」は最も低い18.5%という結果となった。



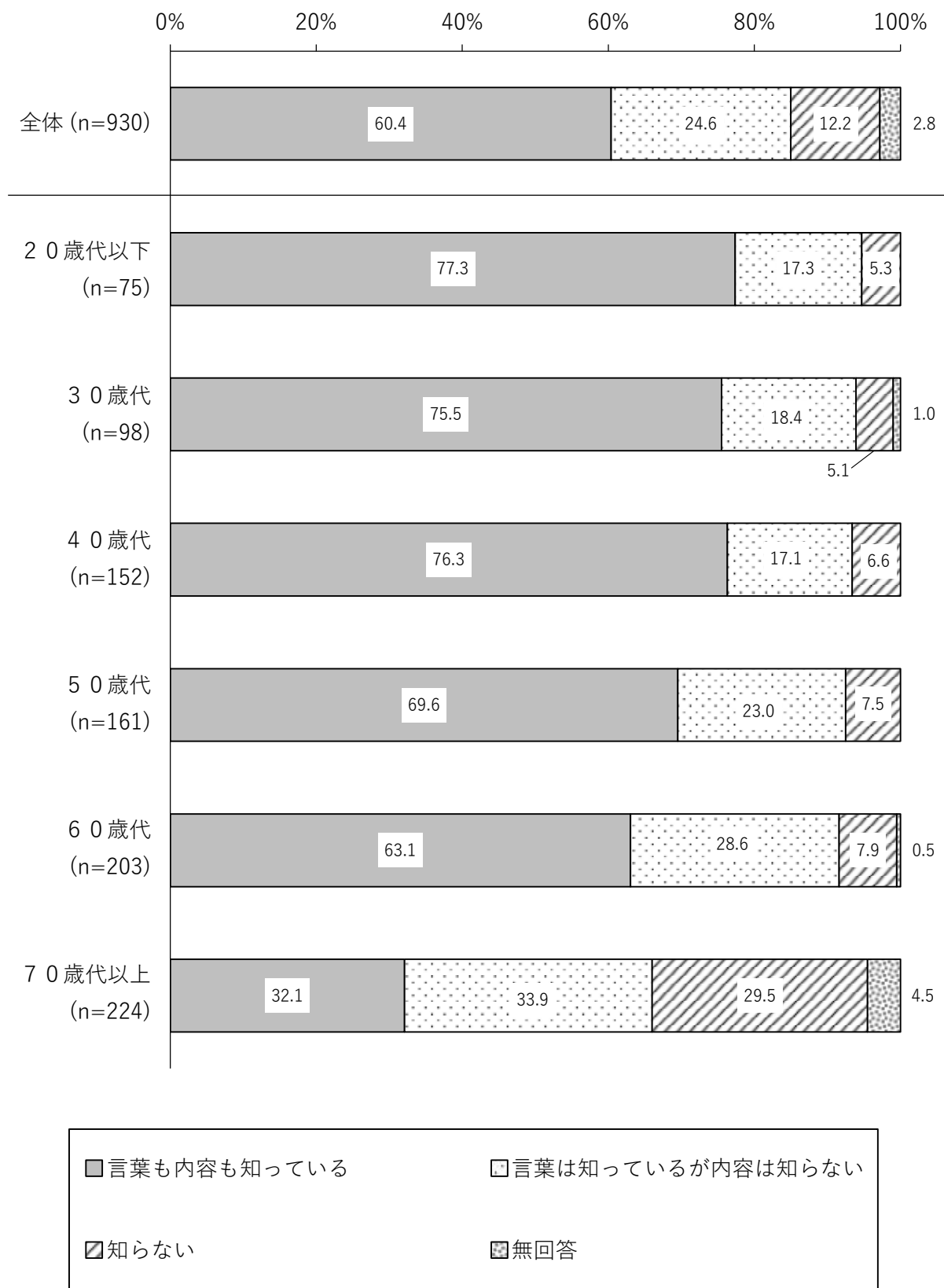
### ① 男女共同参画

年齢別にみると、「言葉も内容も知っている」は20歳代以下が56.0%と最も高かった。年齢が上がると「言葉も内容も知っている」の割合が低下する傾向がみられた。



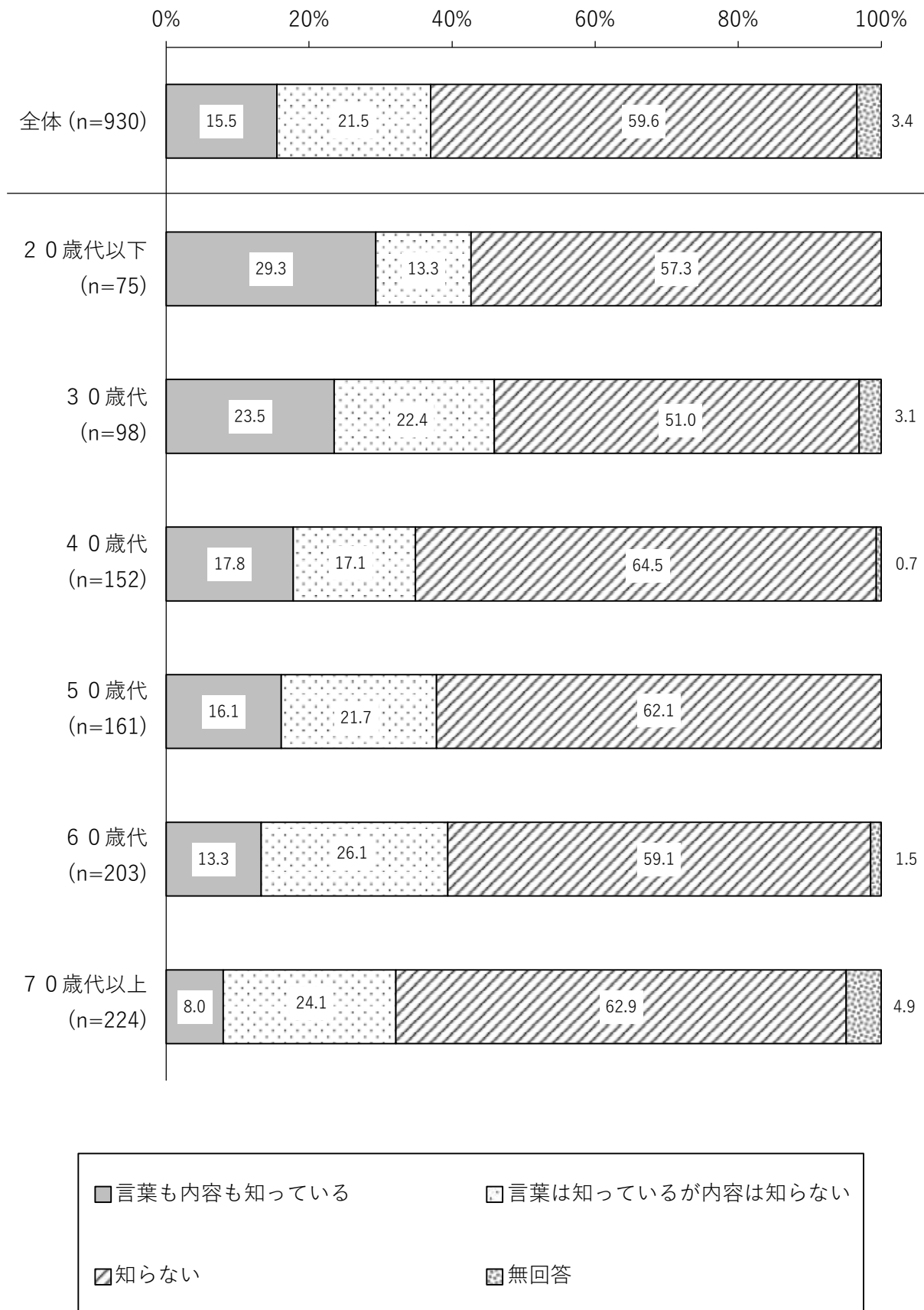
## ② ジェンダー

年齢別にみると、「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容は知らない」を合わせた『認知度』は、60歳代まではいずれも9割以上と高いが、70歳代以上では低下する傾向がみられた。



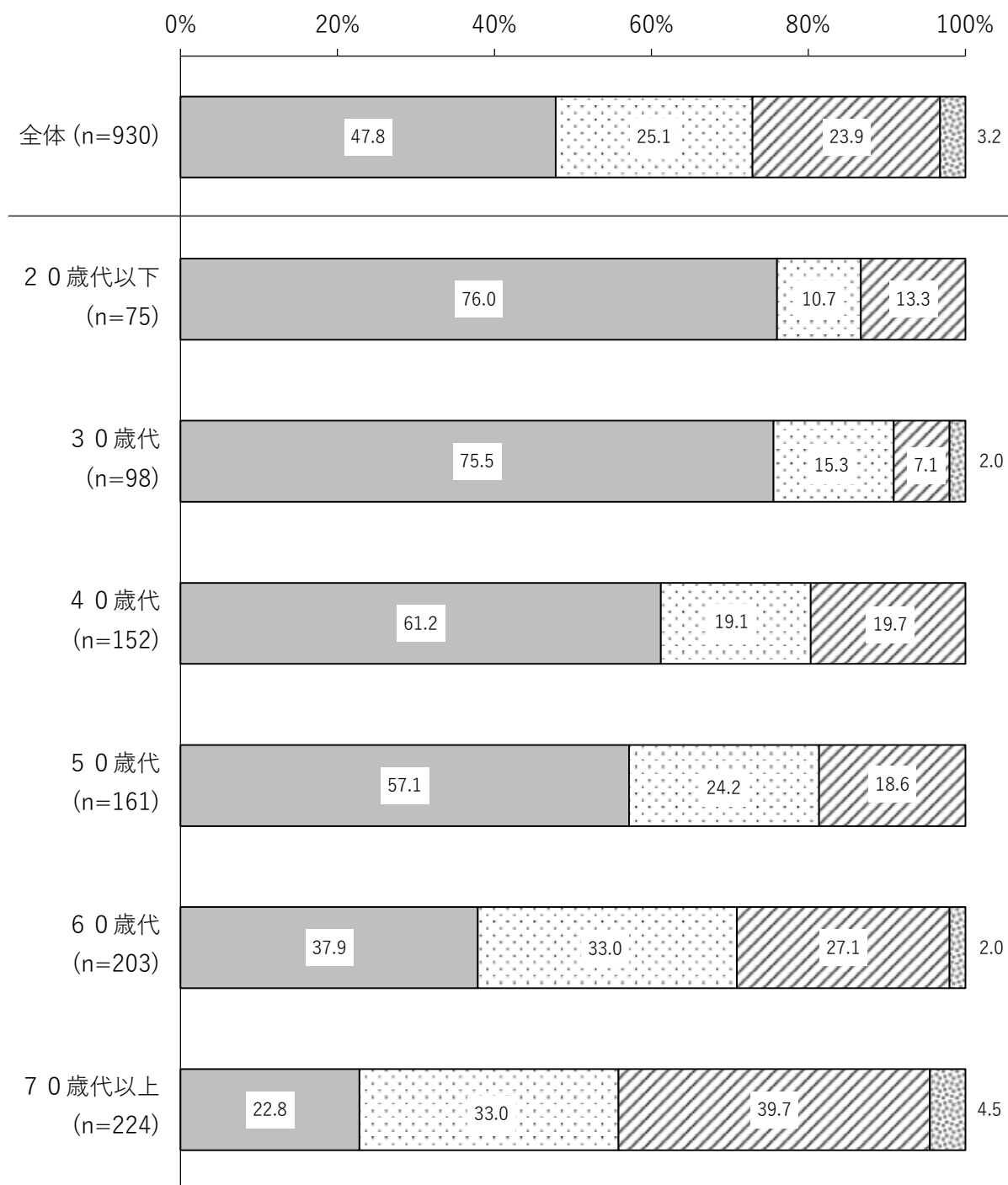
### ③ 固定的性別役割分担意識

年齢別にみると、「知らない」が各年代とも5割を超えている。「言葉も内容も知っている」は、年齢が上がると割合が低下する傾向がみられた。



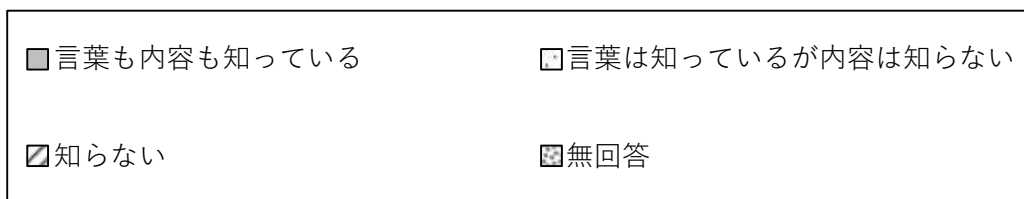
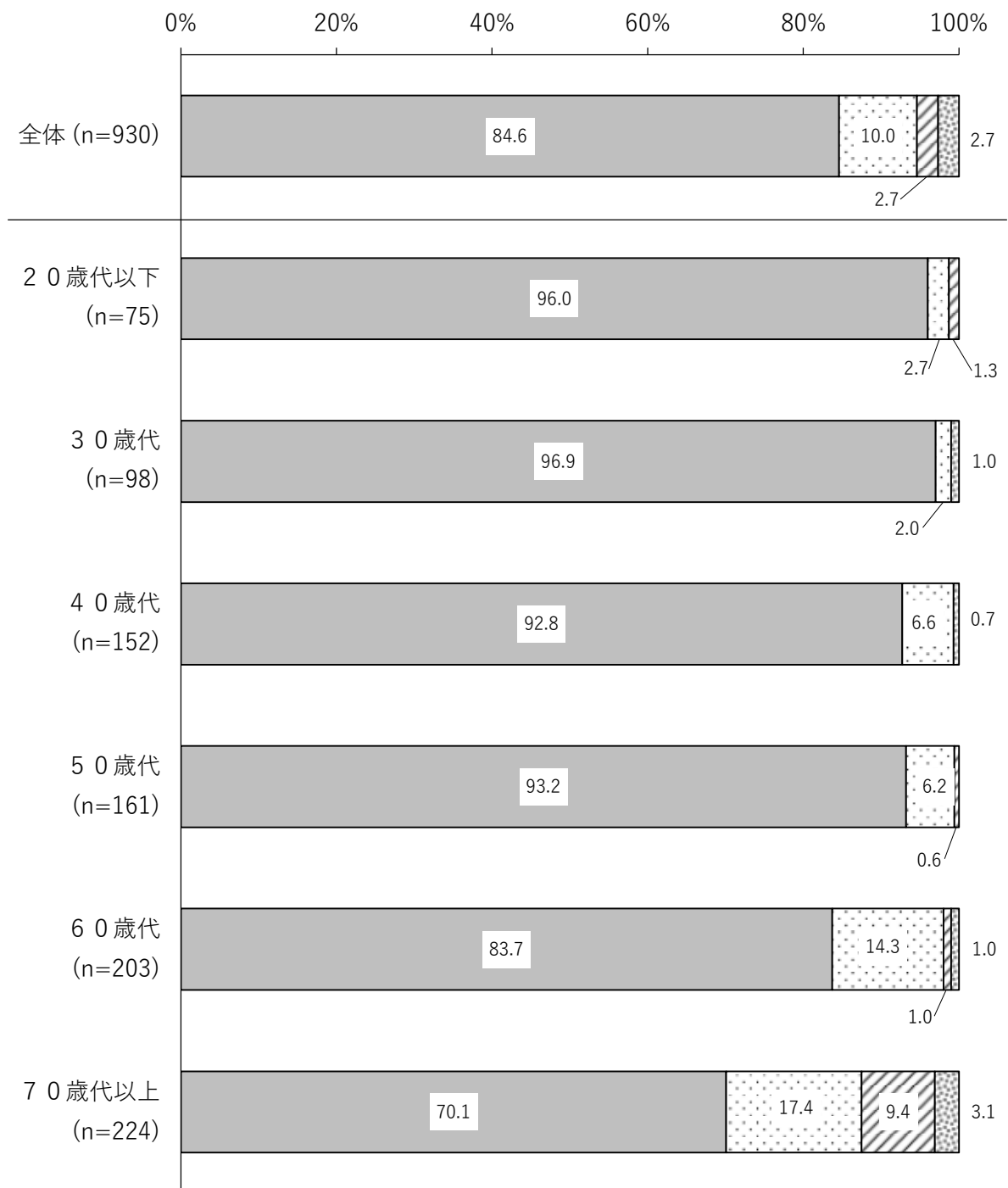
#### ④ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

年齢別にみると、「言葉も内容も知っている」の割合が、20歳代以下で76.0%、30歳代で75.5%と7割を超えるが、年齢が上がると低下する傾向がみられた。



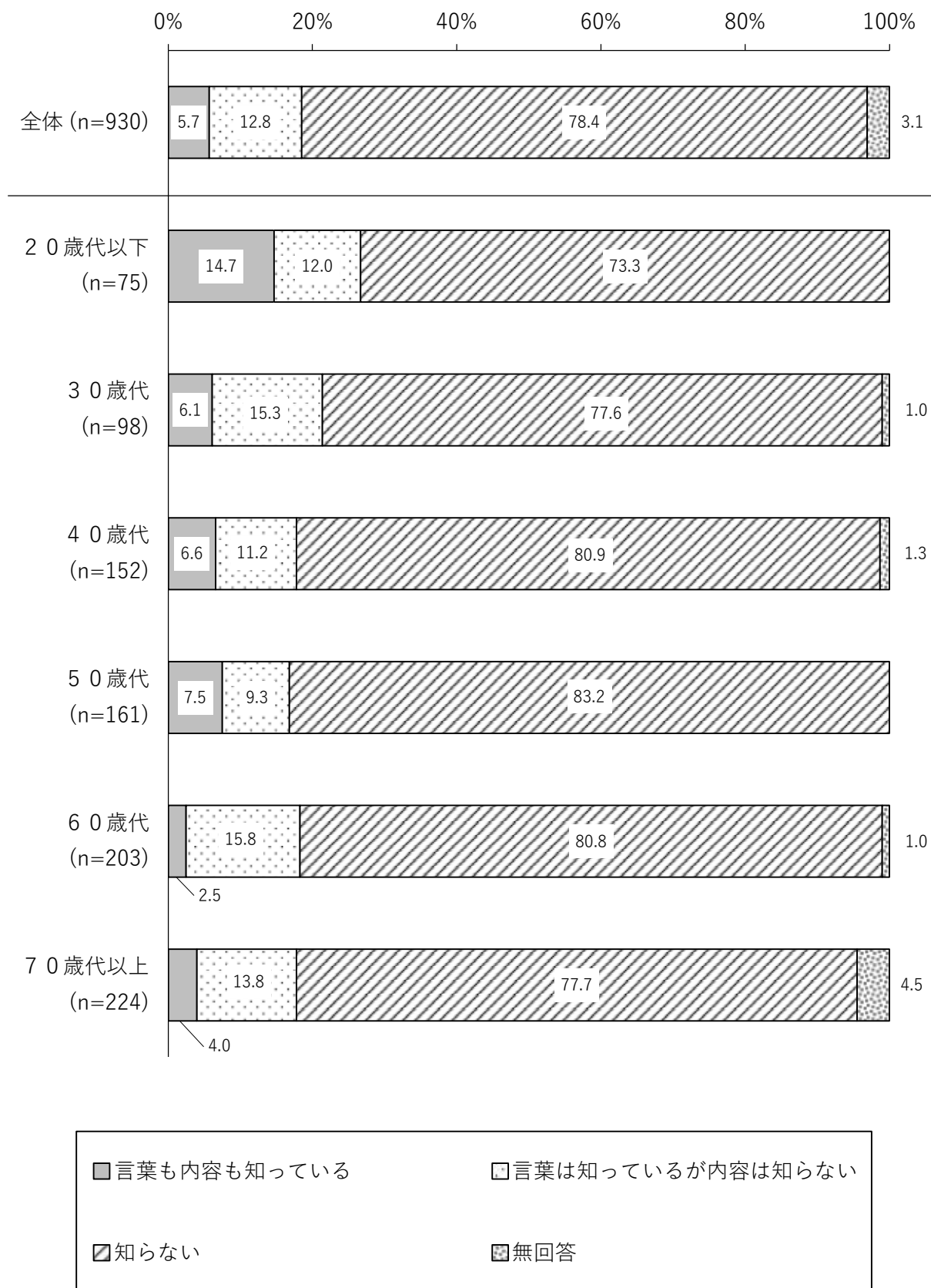
### ⑤ DV（ドメスティック・バイオレンス）

年齢別にみると、「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容は知らない」を合わせた『認知度』は、70歳代以上を除いた各年代で9割を超えた。



### ⑥ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

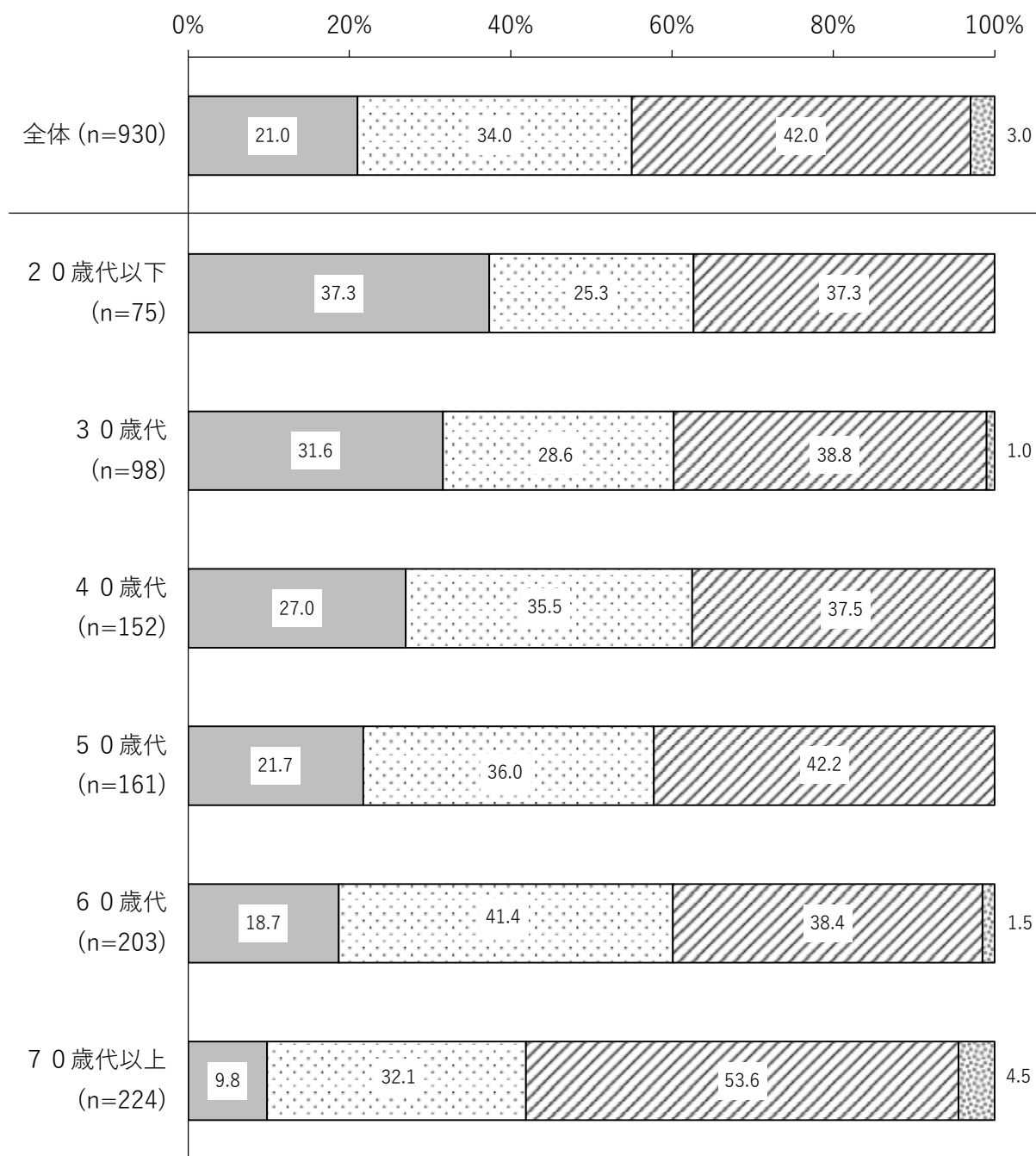
年齢別にみると、「知らない」が全ての年代で約 8 割を占めた。「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容は知らない」を合わせた『認知度』は、最も高い 20 歳代以下でも 26.7% であり、全体的に認知が進んでいないと言わざるをえない。





### ⑦ パートナーシップ宣誓制度

年齢別にみると、「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容は知らない」を合わせた『認知度』は、70歳代以上を除いた各年代において約6割だった。「言葉も内容も知っている」は年齢が上がると割合が低下する傾向がみられた。



問 25 男女共同参画社会の実現や女性活躍の推進に向けて、何を重点的に取り組んでいくべきだと思いますか。(3つまで○)

働きやすい職場環境づくりと教育・学習機会の充実にに関する取組が重要である。

「男女がともに働きやすい職場環境づくりの支援」の割合が 61.0%で最も高かった。次いで、「男女共同参画やジェンダー平等を推進する教育・学習機会の充実」(34.3%)、「企業等の管理職等指導的立場にある人への意識啓発」(28.9%)の順に高かった。

n=930

